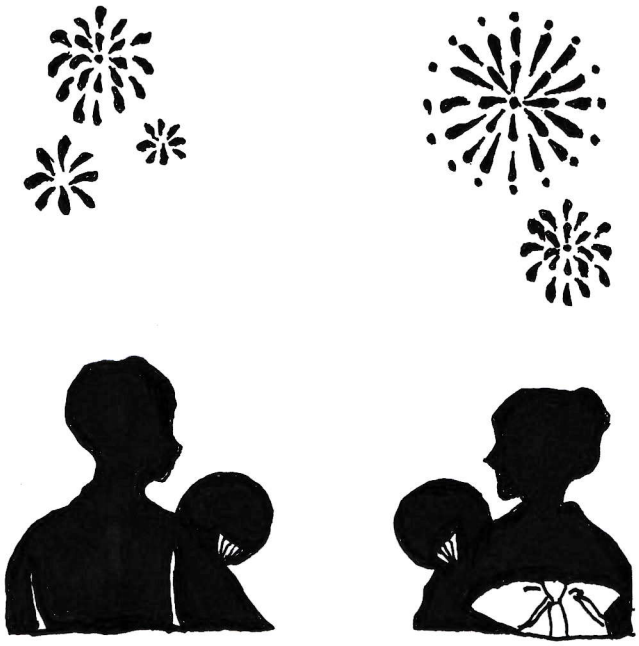
OB 通信

鳳　翩

＝　2025 年　8月号　＝



【萩日本海大花火大会】

山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

鳳翩会

もくじ

				ページ
1	会長挨拶	鳳翩会会長	田村　伊正	1
2	2025年度総会（山口）開催のご案内	鳳翩会会長	田村　伊正	2
		山口支部　支部長	坂田　信一	
3	支部報告			
	東京支部　活動報告	東京支部　事務局長	小関　哲哉	10
	九州支部　活動報告	九州支部　支部長	堀　　剛	11
	山口支部　活動報告	山口支部　支部長	坂田　信一	12
	支部交流会＆追コン参加	山口支部　支部長	坂田　信一	13
4	現役報告	鳳翩会事務局長　人4年	緒方　若菜	15
5	エッセイ			
	ジャンボ（Jambo こんにちは）ケニアの仲間たち	東京支部　S51　工	木林　照明	16
	OB会東京支部　事務局長を終えて	東京支部　S54　経	秋山　高弘	18
	時刻表の旅	関西支部　S51　工	池田　　純	20
	中国　杭州、紹興、上海旅行	東京支部　S47　工	福永　俊美	21
	酉谷山（とりたにやま）	九州支部　S57　経	堀　　剛	23
	二人の幕臣県令	山口支部　S52　経	古谷　眞之助	24
	完全に頭がおかしい陰謀論者	九州支部　S60　農	池田　徳子	28
	スペイン巡礼の旅	東京支部　S57　経	長谷雄 敏郎	29
6	近況報告			
	東京支部　春の山行	東京支部　S54　工	木下　嘉郎	37
	同期会だより（別府）	九州支部　S45　経	武富（伊藤）敏夫	38
7	OBの皆さまへのお願い			40
8	２０２５年度本部・支部役員連絡先			42
	編集後記			42

１．会長挨拶

鳳翩会会長　S53 年　工学部卒　田村伊正

近年、ますます顕著に感じられる猛暑や突発性の豪雨、竜巻が全国で発生していますが、鳳翩会の皆様にお変わりなくご健勝のことと存じます。また、常日頃より鳳翩会の運営に関しまして温かいご理解とご支援を頂き賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の総会では、東京支部のおもてなしにより盛会の中、会員の懇親を深めることが出来ました。改めて、ご参会の会員の皆様に感謝申し上げます。

今年の総会は、山口県萩市の菊が浜海辺の宿「千秋楽」を会場として、山口支部の坂田支部長（大会実行委員長）を初め支部の皆様により企画ご準備頂いています。会場のご紹介やレクレーションのご案内を添付しておりますが、時間に余裕のある方には、萩市の歴史観光探訪もお楽しみいただけたらと存じます。また、母校のある山口ならではの取り組みとして、現役部員と親しく交流することで、豊かな時を共有できる企画が練られています。会員の皆様には、萩市で開催されます総会・懇親会に、是非ご参加いただけますようお願い致します。

私の２期４年間の任期も残すところ数か月となりました。アフターコロナに伴い、現役の活動環境も回復し、部員は１００人を超える人気を得ているようです。ＯＢ会の各支部活動も世代交代を図りつつ、以前の元気を取り戻したかのように感じられます。執行部の運営も大きな環境の変化に翻弄されましたが、副会長を始め本部・支部の役員の皆様の下支えを得て、勤め続けることができました。皆様のご支援とご協力に感謝申し上げます。

改めて、執行部の果たすべき役割は以下の３つと思い至っています。

① 現役学生との交流とその支援

② ＯＢ会員の親睦と交流。

③ 会費運用会計の健全維持。

今回のＯＢ通信を紙媒体から電子化への移行を試行させていただき、会員の皆様にはホームページ上での閲覧をお願いすることとなりました。また、総会へのご案内も工夫し、様々な会員に負担をかけないよう配慮しました。郵便料金の値上がりによる財務の圧迫に対して、昨年の総会にて承認いただき執行したものです。冬に発刊するＯＢ通信は従来通りの印刷紙の郵送配布としますが、しっかり検証して、次年度の検討に委ねたいと思います。

この様な改善取り組みに挑戦できましたのも、若い活力のある世代が執行役員に加わっていただいた賜物と感謝しています。更に今後は現役部員の知恵に頼ることになるかもしれません。

兎にも角にも、会員の皆様も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い致しますとともに、皆様には健康に気を付けて頂き、元気に過ごされますようお祈り申し上げます。

２．２０２５年度　総会（山口）開催のご案内

山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会会員　各位

2025 年 6 月吉日　OB 会会長　田村伊正
山口支部長・OB 総会実行委員長　坂田信一

2025 年度総会（山口）開催のご案内（OB 会ホームページ掲載版）

拝啓　ワンゲルの現役部員が夏合宿に出かける季節が近くなりました、OB 会会員の皆様には、ますます健勝のことと存じます。

さて、2025 年度の OB 総会は山口支部で担当し、維新の歴史を感じる、萩市において開催することになりました。山口大学を卒業した皆様には、きっと、懐かしいと感じられる場所であろうと思っています。せっかく、萩にまで足を延ばすので、宿泊を 2 泊にして、萩をゆっくり散策することや、山口の懐かしい場所を巡って、OB 総会に参加してはいかがでしょうか？　また前日に同期で集まってみるのもいいかもしれません。

今回、皆様の計画立案時間を十分に確保するため、総会案内を 6 月に送付しました。ぜひ、さまざまな旅行計画を立てて、実行に移してください。

また、OB 会に参加していない同期の方にも、OB 会への入会と総会・懇親会への参加をお勧めください。より多くの皆様にご参加いただきたいと願っています。

今回の総会では、開催の負担を軽減するため、インターネットを活用しました。総会の情報を集めた「総会案内」と、参加者の迅速な集計を可能にする「出欠回答」をネット上に用意しました。趣旨をご理解いただき、可能な限り「出欠回答」をネットでご提出いただけると幸いです。回答の入力は非常に簡単です（別紙参照）。また、この「出欠回答」は皆様の連絡先確認の意味も込めていますので、不参加の場合でも「不参加」としてご回答ください。よろしくお願いいたします。

それでは、萩でお会いしましょう。

敬具

スケジュール	**出欠回答；**
開催日；　2025 年 10 月 25（土）～26（日） （24 日の日中、海の家を解放） 開催場所；　萩千春楽（萩菊が浜）、駐車場有 参加費；　19,000 円 （懇親会のみ参加；　9,000	**8 月 31 日（日）**までに、ネットで回答するか、同封のハガキを投函してください。ハガキには 85 円切手を貼ってください。 **ネットでの回答について；** 「総会案内ページ」にアクセスし、回答を行います。

円） 受付；　16：00～（別館 1 F） 総会；　17：00～（別館 2F） 懇親会　18：30～（別館 3F） （レクレーション・詳細は次ページ） ★萩へは、新山口からバス「スーパー萩号」を使います。便が限られますのでご注意ください。（時刻表は 3 ページ目） **萩・明倫センターバス停から、ホテルへの経路** ★萩・明倫センター着 11：15、11；50、13：50、16：20 に対し、バス停から、ホテル行のマイクロバスを出します。 ★バスを降り直接、萩自由散策に出る場合、バス停に荷物をホテルへ運搬する係を配置しますので、その人に預けて、散策にでかけてください。 ★25 日レクプラン 2（萩八景遊覧船）参加希望の方で、13：50 着の方は、マイクロバスでホテルに来てください。ホテルから、船着き場に行きます。	**「OB 会ホームページ掲載版」では、総会案内（回答ページ）のアドレスは公開しません。会員の皆さんに送付した案内状をご覧ください。または、下記メールアドレスに問合せください。** **問合せメールアドレス；** **yuwvoba01@gmail.com**

ネットでの「2025 年 YUWV-OB 総会案内」および「出欠回答」のご案内

「OB 会ホームページ掲載版」では、総会案内（回答ページ）のアドレスは公開しません。会員の皆さんに送付した案内状をご覧ください。または、下記メールアドレスに問合せください。

問合せメールアドレス； **yuwvoba01@gmail.com**

（1）　会のページが表示されます。このページには、総会や萩観光に必要な情報が掲載されています。ぜひご活用ください。スマートフォンの場合は、左上の**メニューアイコン（三本線）**からメニューをご覧いただけます。

（２）　総会案内ページの最後にある「出欠回答」ボタンを押すと、「出欠回答」ページに移動します。

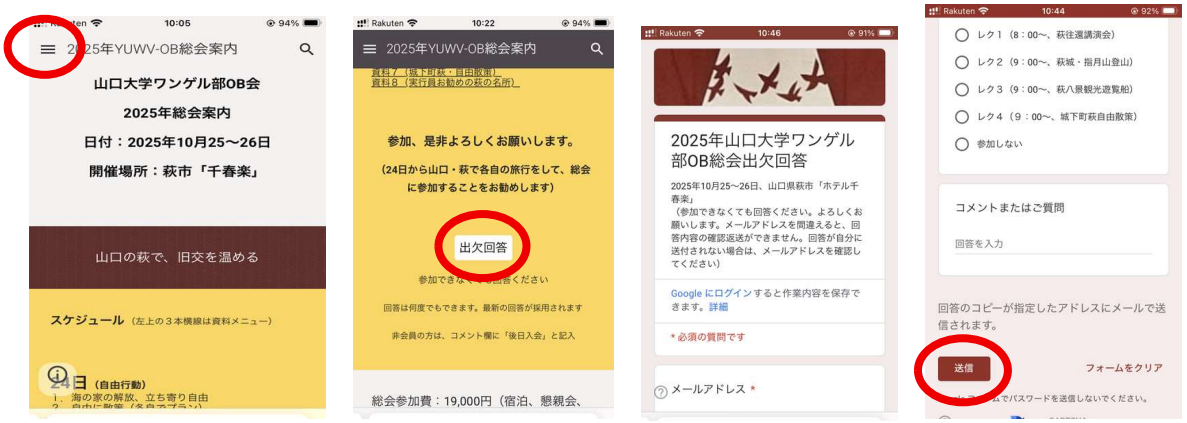
（３）　「出欠回答」ページで、メールアドレス、卒業年度・学部、氏名を入力し、以降の質問にチェックを入れて、最後に「送信」ボタンを押してください。

（４）　Google から「送信者がロボットでないことの確認」が求められる場合があります。指示に従ってチェックしてください。失敗した場合でも、次の質問が表示されますのでご安心ください。

（５）　「出欠回答」ページに戻れば、送信が完了です。回答内容を確認するメールがご自身にも届きます。デバイスの設定環境によっては、回答が（わかりにくい）濃淡文字で表示される場合があります。よく見てください。

（６）　不明な点があれば、「yuwvoba01@gmail.com」にメールしてください。

(1)　(2)　(2)　(3)



総会の詳細

開催日時；　2025 年 10 月 25～26 日（24 日は、立ち寄り所として「海の家」を解放）

開催場所；　山口県萩市「千春楽」（萩堀内菊が浜）、駐車場あり（無料）

参加費：　１９，０００円（宿泊・朝食費、懇親会費、現役部員参加への補助金）

９，０００円（宿泊なし、懇親会会費、現役部員参加への補助金）

回答期限；　・ネット回答（**8 月 31 日**までに「出欠回答ページ」から回答）

・はがき回答（**85 円切手**を貼って、**8 月 31 日**までに投函）

スケジュール；

25 日　（レクレーションの各時間は下表の 25 日を参照）
16：00　受付開始（千春楽　別館１F)、
17：00　総会（別館２F)、
18：30～　懇親会（別館３F)、２次会は各部屋で

26 日　7：00～9：00　朝食（本館１F 大広間）
（レクレーションの各時間は下表の 26 日を参照）
10：00　チェックアウト

レクレーション案内表

★総会前日の 24 日、12 時～、「海の家」を解放します。気楽に立ち寄ってみてください

１０月２５日（土、総会日）	
	11：00～16：00　海の家解放（現役と交流） ・菊が浜に面した「海の家」を開放します。現役部員がテントを張っています。気軽にお立ち寄りください。のんびり過ごしながら総会開始までお待ちいただけます。お茶などをご用意します。
1.	**レク１　14:00　城下町萩自由散策（ガイドなし）** ・幕末の志士たちの生家、萩博物館、明倫館幕末ミュージアムの展示物は必見です。各施設の拝観料は約 300 円です。 ・行程：13:50 に明倫センターに到着の場合、バス停で荷物を預かります。手ぶらで散策後、ホテルまでお越しください
2.	**レク２　14:30～15：40　萩八景遊覧船** ・水面から眺める萩の風景は新鮮です。乗船料：1,500 円。 ・行程：14:30 にホテルを出発し、徒歩で乗船場へ向かいます。
3.	**レク３　14：45～16：15　歴史街道「萩往還」講演会** ・萩往還と名所三十六景を写真とイラストで解説します。萩往還公式ガイドの古谷が 12 年の経験を活かしてご案内します。 ・会場：ホテル内別館 2 階

１０月２６日（日）	
	8：00～13：00　海の家の解放（現役との交流） ・菊が浜に面した「海の家」を開放します。現役部員がテントを張っています。のんびり過ごしたい方はお越しください。お茶などをご用意します。
1.	**レク１　8：00～9：30　歴史街道「萩往還」講演会** ・萩往還と名所三十六景を写真とイラストで解説します。萩往還公式ガイドの古谷が 12 年の経験を活かしてご案内します。 ・会場：ホテル内別館 2 階
2.	**レク２　9:00～11：45　萩城内見学・指月山登山** ・指月山(山頂に萩城詰丸)143m、展望は 3 方向、山頂までは結構な急登。山頂からの眺望を楽しみ、萩城の歴史的価値を知る。萩城跡入場料 120 円 ・行程：9:00 にホテルを出発、指月山と萩城（解説付き）を巡り、11:45 にホテル着。雨天の場合は指月山登山を中止し、萩城内のみの見学となります。
3.	**レク３　9:00～１０：１０　萩八景遊覧船** ・水面から見る萩の風景が新鮮です。乗船料 1500 円 ・行程；　9：00 にホテルを出発し、徒歩で乗船場に向かいます。
4.	**レク４　9:00～　城下町萩自由散策、ガイドなし** ・幕末の志士たちの生家、萩博物館、明倫館幕末ミュージアムの展示物は必見です。各施設で拝観料 300 円程度が必要 行程：9:00 にホテルを出発の場合、荷物は係のものが預かり、明倫センターへ運びます。

バス時刻表（2025 年 6 月 20 日現在、最新情報を確認してください）

新山口　→　萩・明倫センタ

運行会社	新山口駅		萩・明倫センター
中国JRバス	10:15	⇒	11:15
防長バス	10:50	⇒	11:50
防長バス	12:50	⇒	13:50
中国JRバス	15:20	⇒	16:20
防長バス	16:50	⇒	17:50
防長バス	17:50	⇒	18:50

萩・明倫センター　→　新山口

運行会社	萩・明倫センター		新山口駅
防長バス	8:47	⇒	9:50
防長バス	10:47	⇒	11:50
中国JRバス	13:17	⇒	14:20
防長バス	14:47	⇒	15:50
防長バス	15:47	⇒	16:50
中国JRバス	17:17	⇒	18:20

宿泊施設と萩のマップ

★　「千春楽（宿）」、「海の家」は、萩城跡、菊が浜、城下町のすぐ近くです

「海の家」の紹介

10 月 24 日 11 時から 26 日 14 時まで、菊が浜の『海の家』を OB 会のために貸し切ります！海に面した一軒家で、砂浜と美しい海を眺めながらゆったり過ごせます。椅子に座って海を見ながらお茶を楽しめば、『最高！』と思うこと間違いなし。OB だけでなく現役学生も居ますので、楽しい会話も弾みますよ。予定が空いている方は、ぜひ遊びに来てください！

外観

内観

風景

3. 支部報告　東京支部活動報告

東京支部　事務局長　S55 年　工学部卒　小関哲哉

1月 30 日（木）　幹部会（旧執行部：城戸・高田・松永・秋山　　新執行部：小林・小関）

新宿の蕎麦屋「渡邊」に新旧執行部が集まり引継ぎを行いました。経験豊かな旧執行部の皆さんから、いろいろと支部運営のノウハウを教授頂きました。新米事務局として不安に満ちたスタートとなりますが、秋山さんが 1 年間フォローして頂けることになりましたので、少し安心している次第です。その後、2025 年の活動スケジュールの確認を行い、最後にそば寿司食べて新年のスタートです。

3月15日（土） Zoom 幹部会（小林、秋山、小関）

春の山行候補地 2 ヶ所を検討した結果、青梅市の「赤ぼっこ（409m）」に決定し、後日下見をすることにしました。

3月22日（土） 春の山行下見（小林、小関）

「赤ぼっこ」コースの下見を行いました。推奨ハイキングコースを下山しましたが、最後に約 40 分間の急階段の下りと単調なロードがあり、結構きつかったので本番はショートカットルートを選択することにしました。

4月 26 日（土） 春の山行 「赤ぼっこ」

参加者 11 名：秋山、三浦、小林、長谷雄、松永、木下、城戸、高津、原、弓削、小関

詳細は本誌「東京支部　春の山行」報告をご覧ください。

6月 17 日（火） Zoom 本部と各支部ミーティング

会計報告、「鳳翩」配布方法、総会、任期満了に伴う会長選挙等について議論しました。

8月23日（土） 暑気払い（予定）

Schmatz（シュマッツ） 東京ポートシティー竹芝店（ビアホール）

そのほか支部長の熱い思いにより、「東京支部 連絡不明者調査」を行いました。本部から頂いた情報をもとに8名（ハガキ送付5名、メール送付3名）の OB に初めて連絡を取りました。その結果、ハガキ送付の1名の OB からメールアドレスの連絡がありましたので、メール送信者3名と合わせて4名の OB を新たに東京支部「OB 通信」のメーリングリストに加え、活動の案内・報告等の送付を行うことにしました。

内 3 名は若い OB で、リタイアのタイミングや諸事情もあると思いますが、いつの日か行事に参加して頂けることを期待して「OB 通信」を継続送付したいと思います。なお、新執行部の「OB 通信」は、現在 12 号になりました。

関東以北は東京支部の守備範囲ですので、知り合いの OB がいれば是非 紹介をお願いします。ちなみに今回は青森県在住の OB と連絡が取れました。　以上

九州支部活動報告

九州支部長　S57 年　経済学部　堀　剛

OB 通信 12 月号以降の活動を報告いたします。

★2024 年 12 月 21 日（土）　忘年会　「博多つつじ庵」にて
★参加者 12 名
いつもの通り盛況な会となりましたが、記念撮影を失念するという支部長のミスがありました m(_ _)m

★2025 年２月８（土）　新年会　「磯貝　藤崎店」にて
★参加者 12 名
会員から推薦があった魚とお酒が美味しいお店での開催となりました。 帰宅困難者が出るのではと心配になるほど盛り上がりました。（実際は出ませんでした。）
今年は宴会の多様化を志したいと考えております。

★2025 年３月 29 日（土）　日帰り山行　荒平山(395m)～油山(597m)　★参加者７名

油山は福岡市の中央部にドンと居座る福岡市民の憩いの山で、東側は「福岡市民の森」という公園施設やモーモーランドという牧場の行楽施設などがありますが、西側は意外に山深く、過去には道迷いによる死亡事故も起こっている山域でその一角に荒平山があります。今回は西側から入山し油山の山深さを体感しながら歩きました。

★2025 年４月 19 日（土）　懇親会　「楽笑」にて　★参加者 14 名

ソフトバンクホークスのフランチャイズ、ペイペイドームの最寄り駅である「唐人町」にもつ鍋、鉄鍋餃子、鶏の唐揚げが美味しいお店があります。仕上げのチャンポン麺にからむもつ鍋のスープが唸るほど美味しいです。家族経営の店で素敵なお婆ちゃまが接客してくれます。東京から異動された泉谷氏に初参加いただきました。

以上、大半が宴会のようですが、５月に九重へミヤマキリシマ鑑賞を計画していましたが雨で中止となりました。今年はミヤマキリシマの当たり年だったようで残念です。来年リベンジ致します。

山口支部活動報告

山口支部　支部長　理学部卒　坂田信一

１．2025年３月15日　OB総会キックオフミーティング

出席者１１名；田中（S47農）、古谷（S52経）田村（S53工）、三國（S55工）、田原（S57工）、坂田（S57理）、日野（S58経）、平野（S59経）、齋藤（S60農）、貞政（現役）、リモート参加；石川（S49教）
場所；萩市市　海の家（11時～15時）

今年は、OB総会の開催に力を注いでいます。
萩の海の家において、OB総会に向け、キックオフミーティングを行いました。内容は、「準備スケジュールの確認」と「役割分担」。昼食を挟んで会議を進め、その結果、実行委員長；坂田、副実行委員長；平野、レクレーション；古谷・日野・田原、会計・受付；田村・田中・斎藤、懇親会；石川・三國・現役、等が決まりました。まずは、総会案内送付に向けて、レクレーションプランの検討、予算の検討、総会案内状の作成、現役との調整を進めることが決定しました。

２．2025年　5月31日　総会準備会議２

出席者１３名；田中（S47農）、石川（S49教）、古谷（S52経）田村（S53工）、三國（S55工）、田原（S57工）、坂田（S57理）、日野（S58経）、平野（S59経）、齋藤（S60農）、緒方（現役事務局長）、貞政（現役）、竹本（現役）
場所；防長青年館（10時～１２時）

総会の案内状送付に向けて、予算の確認、レクレーションプランの確認、案内状・返信ハガキの内容確認を行いました。ミーティングの結果、会員の計画検討時間を長く確保するため、通常、８月末に行う総会案内発送を６月末に早めることが決まりました。今回、参加回答をインターネットでも行えるように仕組みを準備しましたので、その説明も行いました。

３．2025年　6月28日　総会案内状発送作業

出席者８名；古谷（S52経）田村（S53工）、三國（S55工）、田原（S57工）、坂田（S57理）、日野（S58経）、齋藤（S60農）、貞政（現役）
場所；防長青年館（10時～１２時）

OB総会の案内状発送作業を行いました。定形封筒の重量の許す範囲（50ｇ）で、いっぱい詰め込むとの方針のもと「萩の観光パンフレット」を入れました。発送作業は、ＯＢ通信の発送作業と同じですので、ある意味いつも通りの作業をして無事に送付することができました。これで、ＯＢ総会の前半の山場を越えることができました。

支部交流会＆追いコン参加（２０２５．３．５）

山口支部　支部長　理学部卒　坂田信一

コロナ後、昨年復活した追いコンですが今年も無事実施することができました。（開催場所；湯田温泉「だんだん茶屋」）

山口支部では支部交流会を実施後、追いコンに合流し、卒部生および現役生を激励しました。例年のように別室で一足早くまずは支部交流会を開始しました。

（支部交流会）

追いコンの前に支部交流会を開催。今回の支部交流会は総会準備をいかに進めるかという内容に話題は集中しました。（前週の３月１５日に萩市海の家にて第１回推進会議を実施し、レクの担当の係と各自の役割についてはほぼ打ち合わせを終えたところです。）

お酒も入ったところで意見交換を行いました。総会に関しては総会案内に向けてのスケジュール、レクについての計画や萩海の家の活用についていろいろな意見が交わされました。総会では学生にも参加協力要請を行い、積極的に参加してもらう方向です。

（追いコンにて学生激励）

その後、卒部式幹事から連絡が入り、追いコン卒部式会場へと移動しました。

コロナ時は追いコンがなく卒部生に記念品を渡していましたが以前と同様花束贈呈としました。今年は追いコンの日程がなかなか取れず平日ということもあり、卒部生は 5 名出席（卒部生１２名中）参加人数は学生と OB を併せて 20 名程度と少なめでしたが激励の会はおおいに盛り上がりました。（今年も参加予定の県立大生も人数がそろわず不参加となったようです。）

会場も人数相応の部屋で充分な場所が確保できず、花束贈呈の後は会場２か所に分かれ学生も途中で入れ替わり立ち代わり懇親を行う状況となり、個別にゆっくり話ができて交流が深められました。現役生の人数は近年増え続けており、活動も活発化してきており、追いコン等の行事もコロナ前の状況に戻るものと思われます。今後の彼らの活躍に期待したいと思います。

4．現役近況報告

鳳翩会　事務局長　人文学部４年　緒方　若菜

OB 会の皆様、日ごろから現役生の活動へのご支援、誠にありがとうございます。現役生の活動を皆様にご報告させていただきます。

今年は５月 10 日に防府市の大平山で新歓登山を行いました。2～4 年生 28 名に新入生 17 名が加わり、総勢 45 名での賑やかな登山でした。登山前日まで雨が降り続き、当日は天気が心配されましたが、夜中のうちに雨が止み予定通り登山を実施できました。ぬかるんだ道での登山に新入生はもちろん上級性も苦戦しましたが、お互いにコミュニケーションをとりつつ慎重に登山道を進み、一人も怪我をすることなく登頂することができました。午後からは前日の雨が嘘のように天気に恵まれ、満開のツツジと雄大な瀬戸内海の景色を眺めながら昼食をとりました。食後は毎年恒例の鬼ごっこで汗を流し、登山全体を通して学年を超えて仲を深めることができました。

また、７月５日から６日にかけて、萩のコテージをお借りして海合宿を開催しました。コテージをお貸しいただいた田村様には、スイカの差し入れをいただき、大変楽しい時間を過ごすことができました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

二日とも真夏日で絶好の海水浴日和でした。今回は 2～4 年生 30 人が参加し、日中は海遊びやスイカ割り、夕方はバーベキュー、夜は花火を行い海を満喫しました。部員の絆がさらに強まった思い出深い合宿となりました。

今後の活動としましては、８月初週に海合宿（１年生及び山口県立大学ワンダーフォーゲル部参加）、８月後半から９月前半に夏合宿が開催予定です。新入部員が本格的に部の活動に関わってくるので、登山の楽しさを存分に伝えていけるよう、積極的にコミュニケーションを取りながら活動を続けていきたいと思います。今後ともご支援賜わりますよう、よろしくお願い申し上げます。

5. エッセイ　　ジャンボ（Jambo こんにちわ ）ケニアの仲間たち

東京支部　S51 年　工学部卒　小林照明

「*Shomei, I missed you*（あなたに会えなくて寂しかったよ、会いたかったよ）」。日本での１か月の休暇を終えてケニアの現場に戻った私へ、キャンプ入口のセキュリティ女性が声をかけました。
こんなこと言われたら、昭和の日本男児はドキッとしてしまいますね。皆さん、そこが間違いなのです。この「*I missed you*」は、日本ではあまり使わない言葉ですが、英語ネイティブは 「*I missed (miss) you*」 は、もっと気軽な表現として使うのです。「お帰り！(またね！)」、久しぶりに会った友達や家族に対し再会・別れの気持ちを素直に伝えるフレーズなのです。その時、私はわからなかったのです。

私は、65 歳で会社をリタイヤした 2018 年、アフリカのケニアに、JICA(国際協力機構)の技術シニアボランティアとして、地熱開発現場へ５か月赴任し、ケニア国営地熱会社の人たちへ技術指導を行ってきました。その時１か月の休暇を終えて戻ってきた私に発せられた言葉でした。

というのは、私は毎朝 キャンプから掘削現場へ向かう際、セキュリティ女性たちへ「おはよう（ハバリヤアスブヒ *Habari ya asubuhi*）」とともに、朝食で残ったバナナとドーナツをあげていたのです。それが縁で仲良くなり、このように声をかけられたのです。これを「寂しいよ！」と勘違いしてしまったオジサンは、休暇からケニアへ戻る際、100 円ショップ・GU で大量に買ったお土産を持参するのでした（以下の写真）。

セキュリティーの人たちと

赤道地点で土産物屋の
女性に囲まれた筆者

ケニアの人は普段「スワヒリ語」を話していますが、英国の植民地だったせいで英語は上手で日本人よりはるか流暢に話すことができます。以下は、ケニアに赴任してすぐに覚えた「スワヒリ語」の練習歌です。

YouTube 歌 : https://www.youtube.com/watch?v=vUrVeRGo5IM&t=2s

Jambo, Jambo Bwana (ジャンボ ジャンボ ブワナ)	*Hello, Hello Sir?*
Habari ganai (ハバリ ガニ)	*How are you?*
Mzuri sana (ムズリ サナ)	*Very fine*
Wageni, mwakari-bishwa (ワゲニ ワカリビシュア)	*Foreigners, you're welcome.*
Kenya yetu Hakuna Matata (ケニア エツ ハクナマタタ)	*In our Kenya there is "no problem".*

幼稚園児だったころの孫たちは、この歌が流れだすと踊りだしたものです。ワクワクする歌です。この歌をワンゲル OB 仲間たちへ ZOOM で披露し一緒に歌おうとしたのですが、ノリが一つ足りませんでした。私は中四・県内合ワンで歌うと人気が出てくると思うのですが。ここの「ハクナマタタ（心配ないさ！ なんとかなるさ）」のフレーズは、以下 ディズニー ライオンキングのメインテーマ曲にもなっています。

YouTube 歌 : https://www.youtube.com/watch?v=0MxulhivCvI&list=RD0MxulhivCvI&start_radio=1

私が住んでいたキャンプは大きく、カルデラ中心部の底にあり 約 200 人のケニア人の仲間とトレーラーハウスに一緒に寝泊まりしていました。その中で人気の日本人でした。キャンプの食事は下の写真に示す ケニアの主食となるトウモロコシ粉を熱湯の中にかき混ぜながら、煮てつくる「ウガリ」という餅パンのような主食と「湖からとれた 魚（ティラピア）の揚げもの」等が主菜としてよく出てきました。

住み初め、私に提供されたトレーラーハウスベッド上の 中国製エアコンから大量の小さなゴキブリが降ってくるトラブルに遭いましたが、現地 ケニアの人たちとの共同生活は楽しいものでした。久しぶりの手洗いの洗濯にも慣れました。学生時代、山の中のテント生活で鍛えられたことに感謝しています。

土日には、運転手と一緒にランクルを駆って、赤道地点ツアーに出かけました。赤道のモニュメントで磁石が振れなくなるのを確認していると、土産物屋のおばさんたちがどーっと出てきて瞬く間に取り囲まれ、土産物をたんまりと買わされてしまうのでした（前頁の下 写真参照）。

私が出会ったケニアの人たちは、笑顔がすばらしく、愉快でのんきな仲間たちでした。
今、そのケニアに、ワンゲルの S53 森 裕子さんが 4 月末から JICA 高校教師として赴任されています。
このケニアエッセイの続編は彼女にお願いしました。森さん、楽しみに待っていますよ。よろしく！

ケニアの教え子たち

サイザル麻畑（sisal hemp）の子供たち

OB 会東京支部　事務局長を終えて

東京支部　S.53 年　経済学部卒　秋山高弘

今年１月に、東京支部の新旧幹部が集まり、引継ぎを行いました。およそ 11 年に亘り続けてきた事務局長の仕事を引き継ぐことが出来て、ほっとしたのが正直な気持ちでした。支部長ほか幹部の皆さん（城戸さん、髙田さん、松永さん）は、私よりはるかに任期が長かった（多分 17～18 年？）ので、さぞ大変だったことでしょう。小林新支部長、小関事務局長のこれからの活躍にエールを送ると共に、事務局長としての 11 年を振り返ってみたいと思います。

突然の就任

前事務局長から、定年退職に伴い転居するので事務局長を代わって欲しいと突然言われました。まだ東京支部の行事にも参加し始めたばかりでとても無理と思いましたが、ワンゲルだけでなく、ゼミの先輩でもある方には逆らえません。しぶしぶお引き受けしました。最初の挨拶で、「実は皆さんのお顔とお名前が一致しません。失礼があると思いますがお許しください。」とお話ししたのを思い出します。

東京支部通信

支部通信と言うと大げさですが、支部の皆さんへの事務連絡メールに「東京支部通信第〇号」と番号を付けてみました。たまにしか送らない支部の連絡に連続性を持たせたかったからです。最終的に 11 年間で 172 号に達しました。１年に 15～16 通というペースになります。
内容は、山行や懇親会の案内、実施の報告、本部 OB 通信の原稿募集、総会に関する事務連絡など多岐にわたりました。記念すべき第 100 号で「東京支部**通院**」としてしまい、「そんな漢字変換するとは、かわいそうに病気ばかりしているのか？」とか、もう「痛飲」するしかないねと突っ込まれたのを思い出します。

山行の実施

年に２回程度計画するつもりでしたが、夏場の暑い時期は避けたい、秋は全国の OB 総会に参加される方もいるなどと考え、春から梅雨前にかけて登ることが多かったように思います。結局 11 年間で 11 回しか登れず、コロナ禍の活動休止も響きました。私自身は関東の山を全く知らないので、全て支部長にお願いして決めてもらったのですが、百名山達成の猛者である支部長は山を決めた後、下見に行こうと誘うのです。

結局ほとんどの山を2回ずつ登らされる羽目になりました。
　また、引き継いだころに元気に参加されていたメンバーも5～6年たってくると、足がつった、膝を壊したなど色々症状が出てきます。支部長に出来るだけ低山を選んでもらうように、「それでは○○さんが参加できません。」など進言しましたが、お前が一番しんどいのが嫌なのだろうとお見通しだったかと思います。

　始めの頃は、きちんと点呼をとったりコースタイムを記録したりまじめにやっていましたが、最後の頃は馴れと言いましょうか、適当になっていたのでしょう。ある山で参加者が行方不明となる事件が起こり、猛省するとともにそろそろ幹事も潮時かと感じた次第です。

懇親会
　飲むのは大好きですので、これには力を入れました。暑気払い+忘年会 or 新年会で年に2回の開催を意識しました。ただむつかしいのは、幹部4人（皆さんお忙しい）の日程を合わせることと会場選びで、東京支部の場合 20 名前後は集まりますので、広い個室のある店を探すのが大変でした。お店の種類は私の個人的な好みから、ビアホールや居酒屋での開催が多くなりました。ある後輩に本当はワインや洋食が好きなのですと言われ、「蛇の目・大萬」から未だに脱却できていないわが身に恥じ入った次第です。
結局 11 年間で 19 回の懇親会を開催。年平均2回に届かなかったのはやはりコロナの影響でしょうか。最大人数 28 名での宴会でしたが、東京支部はいつも大勢集まってくれるので企画のやり甲斐がありました。

OB 総会
　この 11 年間で東京支部主管の OB 総会を3回行いました。（支部長他幹部はその前の高尾山の総会も入れて4回開催。）初回は大山（おおやま）での開催と言うことはすんなり決まりましたが、宿を探すのに苦労しました。この時期は結婚式と重なるため早く予約する必要があることや、支部の活動として皆で下見をしておくことの大事さを学びました。
　2度目の総会は、気分を変えて都内での開催にしました。まず始めに結婚式を行わないホテルを宿泊場所に決めておいて、山がない分都心のどこを案内するかに知恵を絞りました。皆さんが皇居見学や隅田川の船を利用した浅草めぐりなどアイデアを出してくれました。
当日の詳細な行動要領を係ごとに作ることで、打ち合わせを少なくできたのは収穫でした。
　3度目の総会はコロナが明けて奥多摩（御岳山）で行うことになりました。過去の総会で早めに宿を決める必要があることを学んでいたので、2年前から調査を始め、なんとかコロナ後の料金高騰を平日貸切プラン利用で乗り切ることが出来ました。また早めに係を決め意見を出し合ってもらった結果、ペーパレス化などが実現できました。

振り返って
　11 年やってきて、一番大変だったのは OB 総会の準備でした。今は良いとしても、今後支部の参加人数が減ってきた時に、同じようにお世話できるのか不安を覚えます。準備の中で負担が重いのは宿泊施設の確保とレクレーションプランではないかと思いますので、一つの案ですが、「OB 総会は議事と懇親会だけをセットし日帰り可能な総会とする」にしてもいいのではないでしょうか。
　また、今後支部の参加人数が減ってきた時と書きましたが、今小林新支部長がなんとか関東在住のメンバーを引っ張り出そうと努力しておられるものの、東京支部はそもそも若いメンバーが少なく、次世代にバトンタッチできるのか課題は残ります。解決策ではありませんが、当面は東京支部だけでも会員のご家族や、宇部短や山女のワンゲル OB にも（連絡が付けば）参加を呼び掛けて、少し枠を広げてにぎやかにやるのもいいかなと思う次第です。
　最後に 11 年間自由にやらせてくださった支部長や支部の皆さんに感謝して、振り返りを終えたいと思います。ありがとうございました。

以上

時刻表の旅

関西支部　S５１年　工学部卒　池田　純

最近 JTB から昔の時刻表が復刻され何冊か購入した。大学１年の夏合宿だが、このころは先輩に引率してもらう感覚で行動の全容がよくわからずぢしい記憶と入手した時刻表で補填しようとした次第である。今なら事前に地図や行程を事前調査し、帰宅したら検証をおこなうのだが当時はツアーの旅行気分だめですね。時刻表は３月号なので微妙に時刻が異なるかもしれませんがご容赦を

まず昭和４７年１年時の夏合宿目的地は越後三山だが、確か夏休みの 20 日頃午前中に運動場傍にある部室へ集合、装備を振り分け他のパーティーと一緒に湯田駅まで歩きここで先輩からの差し入れをいただき小郡駅（今の新山口）から昼行列車で大阪へ向かったはずだ。少し話が脱線するが当時の小郡駅はまだ新幹線開業前で貨物を取り扱っており構内を SL が行き来していた。この時代機関区を見学させてもらったことがあり、現役で稼働しているD51 に乗せてもらう経験をした。扇形機関庫には C621 がひっそり保管されていた。（SL 山口号のＣ５７１のように本来トップナンバーの機関車はものすごく大事にされるのだが C62 の場合はデフにスワローエンジェルを取り付けた２号機が有名で割を食った。２号機は今でも稼働できるがこちらは休止状態。ただ両機とも半世紀を経て京都梅小路で会うことができるのは何かの縁だろう。）

話を元に戻すと小郡から何に乗ったかだ。今もそうだが優等列車には乗らない鈍行かせいぜい急行の自由席だ。新幹線接続の特急はたくさんあるが大阪までの急行というと、つくし１号が該当する。時刻表では客なお車急行でなく電車となっている。博多からくるので交直両用の新性能電車だ。こんなりっぱな車両に乗ったのかな。

さてこの列車では大阪に夜の８時頃着く。ここで記憶では北アルプス方面のパーティーと別れ団体待合場所で車座になって次の列車を待つが、新潟方面は時刻表によると22:10 発の急行きたぐにか、その後22:18 の鈍行がある。どちらに乗ったか思い出せない。目的地の奥只見湖の銀山平到着は薄暗かったので、急行券のいらない後者ではなかったか。このように当時は夜通し走る鈍行があってありがたかった。（道路事情が良くない当時は新聞輸送の使命を帯びあちこちで夜行鈍行が運行された。ワンゲル内では京都夜行が有名で夜の 10 時ごろ京都を立てば、山陰まわりで程よい時間に山口に着く。東京発の座席急行では未明に到着するので使い勝手が悪い時がある。）さて北陸本線から信越本線の宮内で乗り換え上越線の小出で下車、買い出し後銀山平までのバスに乗っている。枝折（しおり）峠付近の道は未舗装で狭くトラックとすれ違い時、バスは大きく揺れトラックと軽く接触開け放された窓から積み荷の土砂が流れ込んできた。このバス路線今は無い。1970 年の時刻表にも無いことから開設されていたのはそんなに長くないと思う。

さて越後三山とは中ノ岳、越後駒ケ岳、八海山をさすが合宿では銀山平の登山口から荒沢岳→兎岳→中ノ岳ここから八海山に行く予定だったが断念している。表向きその年水が少なく水場までの長い往復とかで予定通り進まなかったためと聞いたが実際は我々一年生の力量が甘ちゃんで、鎖、キレットが続く中ノ岳から八海山の難所を無事に通過できないと先輩諸氏が判断したと思う。実際途中の雪渓では滑落事故が発生先輩諸氏はヒヤッとしたと思う。というわけで中ノ岳から駒ケ岳へ歩を進め小屋そばで幕営の予定が、ここは規則で幕営禁止と管理人から告げられる。小屋泊りなら OK だがあいにくこちらは合宿中そうはいかない。管理人も軒下で寝ても良いとおっしゃられたが結局そのまま下山となった。そのためか駒ケ岳の頂上の記憶は一切ない。下山は時間が時間だけに途中から日が暮れ懐中電灯を点しながらの行軍となった。水場がある天場で幕営、翌日小出駅の近所民家の空き地で許可を得て一泊している。民家の方からスイカをいただいた記憶がある。ところで下山ルートの記憶がない。

←昭和４７年夏合宿　筆者（まるで乞食だな）

駒ケ岳からは東側の枝折峠と西側の森林公園へのルートがあるが時刻表では森林公園からのバスは無いのと先の小出駅での幕営を考えると西側に降りたと思うが疲れていたのかバスに乗った記憶は無い。

次の目的地は尾瀬ヶ原だが小出駅 8:01 の一番列車に乗れば、沼田駅に午前中につき、大清水行きのバスに乗れば峠越えの時間を見ても夕刻までには尾瀬沼に到着することが読み取れる。

今回復刻時刻表で記憶を補完してみたが、やはり記録にはかなわない。若者には断片的でよいから山行の記録を取ることをお勧めする。

以上

中国　杭州、紹興、上海旅行

東京支部　Ｓ４７年　工学部卒　福永俊美

今年は昨年に続いて毎日文化センター「季節と旅の漢詩」高橋恵子先生企画の“新緑の杭州、紹興、上海の旅”５月２３日～２７日に参加した。昨年のメンバー７名、新規参加者７名であり先生がツアーガイドも務めて総勢１４名の団体ツアーだった。

中国語を最初に習った時の教科書に“上有天堂下有蘇杭”（上界には天国があり、下界にあっては蘇州、杭州の名勝がある）の句があり、蘇州は行ったことがあるが杭州へは無かったので是非とも参加したかった。

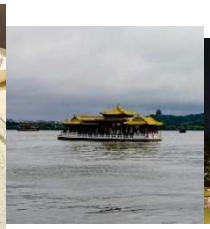
初日　７時羽田空港集合、９時２０分発上海虹橋空港行きだったが、都内ＪＲ線の乱れや静岡からのタクシー組７名が交通渋滞に会い、出発ギリギリに間に合うアクシデントから旅が始まった。

上海から高速鉄道にて杭州へ約１時間。専用バスにて西湖へ、夕食は老舗レストラン 1848年～「楼外楼」にて杭州名物料理（東坡肉・詩人蘇軾が好んだ豚の角煮やコジキ鶏）を食す。食後に西湖畔噴水ショーを見て雨の中を散歩しながら西湖畔のホテル・望湖飯店へ。杭州泊。

杭州駅

西泠印社

コジキ鶏


遊覧レストラン

西湖夜景

５月２４日　紹興への日帰り観光

先ずは紹興独特の水上交通船・烏篷船に乗り東湖遊覧。

次に近代文学の創始者・魯迅の故里（旧居・生まれてから１８歳まで過ごした家、魯迅記念館、百草園）　へ。旅行前に彼の小説を急ぎ読んだが難解だった。（阿Ｑ正伝、故郷、孔乙己）

昼食は小説“孔乙己”に登場する居酒屋「咸享酒店」にて、前菜の茴香豆をつまみに紹興酒を飲んだ。次は市内より約１２ｋｍ離れた庭園の蘭亭に行った。約１０年前老人大学校入学後に書道部に入部した時に、先ず中国にて書聖と称されている東晋書家・王羲之（303～361 年）の蘭亭集序（日本では蘭亭叙と表記）を臨書する事から始まった。この場所にて曲水の宴を開催し蘭亭集序を書いたのかと思うと、なにかしら１７００年前にタイムスリップしたように感じた。この日は最後に紹興酒工場を見学し、お土産に１０年物を１本購入した。杭州泊。

魯迅居室

咸享酒店

孔乙己と私

蘭亭

曲水の宴

紹興酒工場

５月２５日　杭州市内観光

早朝仲間二人と西湖畔を爽やかな空気を吸って散歩するも、マラソンが開催されていてホテルへの道路が封鎖され、ヤキモキするもギリギリホテルの朝食に間に合った。１７００年の歴史を持つ杭州で一番古い寺院・霊隠寺へ。中国を代表する緑茶で国賓のお土産にも使われている、龍井茶を栽培する龍井村にて茶畑見学。清朝時代の乾隆帝がこの地を訪問して出されて茶が殊の外美味しかったので、皇帝しか使うことが出来ない龍を許可して龍井村と名を改め、ここでしか取れない茶を龍井茶としているとの事。お土産に１缶購入。北宋時代、銭塘江の氾濫を鎮めるために建立した六和塔に登る。清時代の古い街並みを模して作られた清河坊街を散策。夕食は薬膳料理の名店「胡慶余堂」（北京の同仁天堂と並ぶ漢方薬店）。薬膳料理は初めてであり、なんとなく薬っぽいが美味しかったし、薬膳酒も飲んでみた。杭州泊。

霊隠寺　　龍井泉　　龍井茶畑　　六和塔　　胡慶余堂

５月２６日

前日より早く起きて一人で西湖畔を散歩する途中に栗鼠に出逢う。また地面に書道をしている叔父さんが居た。昨日は同じ場所に居なかったのだが、マラソンの影響で休んだのかな？時々携帯電話を見て確かめながら漢詩を書いており、話かけようと思ったが真剣な顔つきであり、朝食時間に遅刻しそうだったので急ぎ戻った。高速鉄道にて上海虹橋駅へ。豫園と豫園商場見学予定だったが、時間が無かったので豫園商場見学のみで終了。夕食は１６０年を超える老舗「老正興」にて上海料理を味わう。夕食には王震さんにも同席してもらった。王さんは中国語サークル初期の老師で、当時千葉大学博士課程の学生であり、サークル仲間とのツアーを企画してくれて、北京、長家界、黄山、天津旅行のガイド役となってくれた。卒業後は蘇州の合弁会社の董事長として活躍されており、事前に恵子先生にお願いして一緒に食事となり数年振りの再会だった。夕食ではメンバーの誕生祝いのパフォーマンスもあり大いに盛り上がった。夕食後は皆と別れてレストランに入り、王さんと乾杯を何度も交わし旧交を温めた。　上海金門大酒店泊。

栗鼠　　書道叔父さん　　豫園商場　　王さんと食事　　上海夜景

５月２７日

昨日行けなかった豫園にガイドさんと希望者のみ数人と行く途中の公園で、地元のバンドが演奏していた。音楽音痴の私にもこれはジルバかな？と思い近くに座って居た女性に手を出し一緒にダンスを踊ってもらった。うん現在社交ダンスの練習も少しは日中友好に役に立ったかなと。数十年振りの豫園も懐かしく見学したけれど、今回旅行目的の一つである昨日豫園商場での見かけた西湖の西泠印社に、急ぎ印泥（印肉）を買いに行った。他に筆、トートバッグなどを購入した後に、中国語の勉強の為に下手ながら一生懸命に話すが、販売員は携帯電話にて日本語を提示して更に高価な印泥の売り込みをして来た。現在は外国語が出来なくても携帯電話で翻訳して十分意思疎通が出来る時代を実感した。その後外灘あたりを散策して上海点心を昼食として、リニアモーターカーで上海浦東駅、日本航空にて羽田空港へ帰国となった。

豫園前公園にて　　豫園５人組　　豫園庭園　　トートバッグ

今回の３泊４日旅行も文学あり、書道あり、お茶あり、お酒あり、観光あり、旧友との再会ありの充実した思い出深い観光旅行となった。後期高齢者となり忘備録として２０２５年 ７月２０日記す。

酉谷山（とりたにやま）

九州支部　Ｓ５７年　経済学部　堀　剛

奥多摩の山です。標高 1,718m。奥多摩の最深部にあると言えるでしょう。
JR 奥多摩駅から日原(ﾆｯﾊﾟﾗ)鍾乳洞行きのバスに乗り、東日原で下車すると登山口があります。登り始めは杉の植林帯を九十九に登り、ようやく尾根に出ますと少しなだらかな自然林の登りに変わります。しばらく行くといつしか切れた谷のトラバース道。ここは冬には道が凍結し、その凍結を枯葉が隠すこともあり過去に転落による死亡事故もあったそうですが、春や秋はとても綺麗な自然林の道です。トラバースを終えると尾根伝いにもうひと頑張り登り、一杯水(ｲｯﾊﾟｲﾐｽﾞ)避難小屋に着きます。ここまで概ね３時間。古い小屋ですが中は綺麗で、ここでおにぎりとインスタント味噌汁で休憩するのが楽しみでした。ここから急登約 30 分で天目山(ﾃﾝﾓｸｻﾝ、別名三ツドッケ)1,576m に着きます。狭いピークですが、南方に富士山がドンと見え、その手前には奥多摩駅から鷹ノ巣山を越え雲取山に伸びる石尾根が見える日当たりの良い山頂です。日帰りの場合はここで来た道を引き返します。
ここから長沢背梁のなだらかな尾根を西に２時間半程歩くと酉谷山避難小屋に着きます。綺麗な小さな小屋です。小屋の窓から富士山を眺めることができます。但し、定員５名程の小屋なので、ここに泊る予定の際は満員の場合を考え必ずテントを持参しました。
ここにザックを置いて約２０分で酉谷山山頂です。とても静かな山頂です。木々の小枝の間に富士山があります。しばらく山頂で過ごし小屋に戻ります。
奥多摩最深部とは言え東京ですから、この小屋を目指す人も相応にいらっしゃいます。小屋が満員でテントを張ったこともありました。しかし多くの場合は小屋に泊ることができ、小屋で一人だけということも何度かありました。特に冬場は小屋を独占できます。一昨年、久しぶりに泊った時には私より少し先輩の方と二人でしたが、山談義をしつつ有意義な一夜を過ごしました。

東日原から一杯水避難小屋に向かう登山道ではニホンザルの群れによく出会います。私はおにぎりを食べ、彼らは木の実などを食べ、互いに互いを意識しながらやり過ごします。互いのレスペクトが大切のようです。
雪が積ったある日、妻と日帰りで天目山を目指していますと新雪がべっとりと広範に血に染まり、まだ血生臭さも残る所がありました。何があったのかとよく見ますと鹿の足が転がっていました。「こんなことできるのは熊しかいないよね・・・！」と言いながら通り過ぎました。
別の日、天目山から東日原へ下山途中、向こうの尾根を凄い速度で走る黒い動物が見え、クマかイノシシかと見分けようとしましたが分かりませんでした。人間には到底対抗できないスピードでした。
一人小屋に泊っている夜、外に出ますと鹿の群れが一斉に私の方に振り向くのが光る眼で分かります。山に抱かれていると感じることのできる場所です。スマホは圏外で世間様にお暇して過ごせます。定年で東京を引き払い九州に移る間際、最後に泊ったのも酉谷山避難小屋でした。ずっとここにいたいと思ったものでした。
　酉谷山避難小屋から更に長沢背梁を西に進みますと、長沢山、芋の木ドッケを越えて東京最高峰の雲取山(2,017m)に辿り着きます。ここから東に、振り向けば南アルプスを眺めることのできる石尾根を辿り鷹ノ巣山(1737m)まで歩きます。以前は鷹ノ巣山から東日原に下山できましたが、この道は豪雨による崩壊で通行止めになっているようです。今は奥多摩駅までの道を辿ることになるのでしょうか。

奥多摩は魅力的な山が一杯です。ケーブルカーで登れる御岳山、ファミリー登山によい高水三山、駅から歩ける急登の本谷山や鋸尾根、百尋の滝が美しい川苔山、奥多摩三山と言われる大岳山・御前山・三頭山など名山が沢山あります。お世話になった山ばかりです。登山ルートも沢山ありますから人は分散され、奥多摩駅に降り立った時の人の多さを登山中はあまり感じません。足を延ばせば、山梨県や長野県の奥秩父の山々、埼玉県の奥武蔵の山々まで道がつながっています。奥多摩のお隣、青梅丘陵は 400m 程の山々がつながる山域ですがカモシカに出会ったこともありました(熊出没のニュースがままある所です)。
東京都は自然が一杯です。
その最深部の酉谷山は私が愛する山の一つです。九州に暮らす今、また行ける機会があるのかは分かりませんが、いつまでも心に残る山になるのでしょう。
九州に暮らしながら、遠く奥多摩の酉谷山を思う。不思議ですが、忘れられない山です。

二人の旧幕臣県令

山口支部　S52 年　経済学部卒　**古谷 眞之助**

【中野梧一　山口県文書館】

【関口隆吉　「新村出の生涯」より】

【新村出　「新村出の生涯」より】

1.はじめに

山口県の旧県庁舎、現在は山口県県政資料館となっている建物の２階に歴代県知事の写真がずらっと掲げてある。そのうちの第二代知事(県令)関口隆吉の写真の下には「広辞苑」がさりげなく置いてあるのをご存知だろうか。語り部のガイドを始めた頃、研修で山口市内を回った時、なぜこんなところに？と思ったのだが、関口の次男が「広辞苑」の編者として名高い「新村出」であるためと知ったのは随分後のことだった。

初代の中野梧一も二代の関口も旧幕臣である。明治維新の立役者である長州藩(山口県) の知事(県令) にこの二人が就任したのは、鹿児島県出身県令が２代続いた薩摩藩とは実に対照的である。そして中野は、その後、実業界に転じて長州藩出身の政商・藤田伝三郎に協力し、大阪商法会議所副会頭にまでなるが、41歳にして謎の猟銃自殺をしている。一方関口も、順調に出世して、その後静岡県令になるが、自身が敷設に尽力した東海道線の試運転時に乗車していた車両の正面衝突事故に遭遇し、その時のケガがもとになって52 歳で亡くなるという、余り尋常ではない死に方をしている。

二人については巻末に示す参考文献にかなり詳しく語られているので、ここでは、語り部ガイドのネタになりそうなエピソードを集めてみることにしよう。

2. なぜ幕臣の二人が県令になったのか

旧幕臣が県令となった例は、実は山口県のこの二人のみのようである。それ以外の県では、一部の例外を除いて、その県とは無縁の者を就任させたようだが、幕臣採用例はない。この抜擢は、長州藩の宿敵とも言える幕臣を県令に送り込んで一応の成功を見たことで、地方行政に対する長州閥の発言権、影響力を確固なものにする効果を生んだと言われている。実質的に中野を県令に据えたのは、当時大蔵大輔だった井上馨である。中野は 1871 年９月には大蔵省七等出仕に任命され、そのわずか２か月後には山口県参事となり、そのまま、権令、県令と昇進している。詳しい経緯は不明だが、井上の引きがあったのは間違いない。山口宰判の大庄屋・吉富簡一宛の井上の手紙には「この度の山口県参事中野と申す人、静岡の者にそうらえども、事務も十分でき、かつ人物もいたってよろしく、第一等の参事にそうろう」と中野のことを書いており、大蔵省の自分の部下として高く評価していたことが伺える。また山口県の県官吏たちに対しても中野へ協力するように井上は厳命しているのである。そして、これはあくまで想像だが、新しい中央政権国家を構築するに際して、井上が率先して旧幕臣であろうと、前歴に関わらず広く人材を求めようとした、ということもあったのではないか。ともあれ、井上と中野の関係は、その後彼が実業界に移った後も続いたのである。

一方の関口の県令就任だが、特に長州閥の誰かに引き立てられてのことではないようだ。若い頃、桂小五郎が塾頭をしていた斉藤道場・練兵館で剣を学んでいるが、その縁もないようだ。また関口は幕臣でありながら尊王攘夷思想にも関心を持ち、一時久坂玄瑞や前原一誠とも交流があったようだが、これも特段その後の山口県令就任と関係しているとは思えない。むしろ皮肉なことに、前原と関口は後に「萩の乱」で立場を逆にして戦うことになる。剣の腕が立ったためだろう、関口は幕末には慶喜の身辺警護役となり、維新後は慶喜に従って静岡に移り、静岡藩士となった。しかし、それも短期間に過ぎず、彼も維新後の新政府に出仕することになる。そして、福岡、山形の地方行政官を経験して、1875 年には中野の跡を襲って山口県令になった。その後、静岡県令にも就任しているが、その頃には「地方の令は他県のものを充当する。すなわち出自に関係する地の県令には就任できない」というルールが確立されていたから、これは異例のことだった。ともかく関口は地方官吏としては非常に優秀だったようだ。余談だが、山口県では幕臣出身の二人以降、戦後の 1946 年まで県出身の知事はいない。しかし、公選選挙以降は、当然のことながらすべて山口県出身者である。

3. 中野梧一について

中野は、改名前は斉藤辰吉と言った。1842 年、江戸生まれの幕臣である。評定所勤務を皮切りに主として勘定方役人として出世していき、1867 年には勘定組頭となった。評定所勤務の時には、大老井伊直弼殺害の浪士捕縛に携わり、皇女和宮の江戸下向の際には、その警護役にもなっている。また、後に色々と物議をかもすことになる米沢藩の「屋代郷騒動」では、幕府役人の一人として一揆農民に対して厳しい拷問を伴う徹底した取調べを行い、かつ農民たちの英雄であった高梨利右衛門の酬恩碑を破却してもいる。彼の調査に基づいて幕府は、獄門５名、死罪１名、追放３名の処分を決めており、中野はそんな暗い一面も残している。1868 年、中野は榎本軍に加わって函館で戦った。ここでは「会計局」を勤めていたようだ。そして戦いに敗れると降伏時の軍使も務めている。

その後は獄に繋がれるが、1870 年には赦免されて静岡藩に移った。この時に斉藤姓から中野梧一と改名している。翌 1871 年９月３日には大蔵省７等官として出仕し、11 月には井上の引きにより山口参事に登用されたのは前章に書いた通りである。なお、県のトップは県令←権令←参事となるが、当時山口県の県令、権令は空席で、中野は最初から実質的にはトップとして登用されたのだった。赴任は 12 月５日のことだった。一級史料と言われる「中野梧一日記」は、この日から書き始められている。６日、横浜で船に乗る前に彼は 7 連発のピストルを購入しているが、彼にしても宿敵の地に赴くという気持ちはあったのだろう。アメリカ商船、コスタリカ号に乗船して神戸まで行き、神戸からはヲテント号（旧長州藩船、丙寅丸）に乗って 14 日に三田尻港に到着した。ここから山口までの足取りについては、彼の日記を見てみよう。（一部、読みやすい文字に書き直している）

「七時起き出し、支度を終え、時田典事（注・県幹部）らと三田尻の旅亭を発し、宮市の天満宮へ参拝す。鯖山峠にて午餐を認む。御堀の外郎屋にて小休止。ここへ山口町役人ら出迎えに来る。夕方五５時、山口中市町の山田本陣に到着す・・・」

そしてこの夜、本陣で県幹部の久保断三、木梨信一、吉田右一、山根秀輔らと新体制や引継ぎなどについて話している。萩往還に関係深い「福田屋」「本陣山田家」が出て来ることにも注目したい。

さて、井上の強い押しもあって、中野の滑り出しはまずまずだったようだ。またこの陰には、吉田松陰の兄で民政家として手腕を発揮した杉民治や県の財政に通じていた高杉晋作の父、小忠太（丹治）らの支援もあった。また中野は井上から湯田の旧宅を住まいとして提供されてもいる。彼はこの邸宅を非常に気に入って、ここから県庁に通った。通勤時間は最初の内は徒歩で約 45 分かかったと記しているが、その後は馬が主体となった。彼の趣味は囲碁、書画鑑賞、小酌で、囲碁や小酌の相手は高杉小忠太をはじめ県の役人たちだった。この二つを彼は県幹部に溶け込むための手段として積極的に使ったようである。また、湯田の瓦屋の長女・龍子は山田顕義夫人となるが、その妹で碁の上手かった京子とも碁を打っている。中野の京子評は「和歌を能す。醜は極まる大根娘」というほど手厳しいものだったが、しばしば碁を打ったと言われている。そういうわけで、瓦屋には何度も訪れたようだが、志士たちが多く利用した松田屋にはたった一度しか行っ

ていないのはどうしたわけだろうか。

また、翌年２月22日から３月22日の１か月で県内巡視を行っている。まずは山口から萩往還を経由して萩に向かった。一の坂を越え、佐々並で昼食、明木の瀧口家で休憩し、萩呉服町の江戸屋に投宿している。萩では萩城、明倫館の見学も行っている。その後は県北東部を回り、引き返して湯本温泉で休養、その後は北浦回りで３月16日に下関に到着。ここよりは船で三田尻へと移動し、そこからは萩往還を馬に乗って21日に山口に帰着している。つまり、中野は萩往還を間違いなく辿っていることが分かる。この巡視では各管内の庄屋層を集めて今後の方針などを説明したようだ。

彼の功績は、全国に先駆けて地租改正を断行したことになっている。ただし、この地租改正は金納が大きな特徴だが、中野の公約した新地租は、農民にはあくまで米納させて、その米を県庁が換金して地租納入に当てるという地租引当米制度だった。そのため、多くの米商人が米の払い下げを願い出ている。その中に、その当時一時下野していた井上馨の会社があり、中野はここに優先的に払い下げを約束していた。これが後に明るみに出ていることから、中野の地租改正は全面的に称賛に価するものとは言い難いというべきだろう。

1875年、彼は突然辞表を出して実業界に転身する。最初に頼ったのは長州藩の政商・藤田伝三郎の藤田組だった。やがてそこで重きをなし、西南戦争時には軍需品輸送で巨利を得、さらにはコレラ流行を予期してクレゾール買い占めによって大阪実業界では一躍トップクラスに躍り出た。その後「藤田組偽札事件」に巻き込まれて逮捕されるが、３か月後には冤罪として釈放されている。しかし、その後も開拓使官有物払い下げ事件に関与するなど、中野は実業家としてかなりきわどく事業を進めていたようで、結局1883年９月19日、謎の猟銃自殺をするのである。享年41。

なお、中野は生涯で三度結婚している。最初の妻「定」は1868年に病没、二番目の妻、秋山せきとはまもなく結婚して山口で暮らしていたが、1874 年に難産の為山口で死去している。「せき」の死は中野に大きな打撃をあたえたようで「かなしき事多し、人生面白からず」と日記に書いて嘆いている。県令を辞職して実業界に転身した背景には、「せき」の死が何らかの形で影響していたかも知れない。現在中野の墓は大阪長柄霊園と山口市本町の長寿寺にあるが、せきの墓も同じく長寿寺に建てられている。一度訪れておく必要があるだろう。三番目の妻「たま」は中野が自殺した時の妻だが、そのこと以外には良く分からない。

4. 関口隆吉と新村出について

関口は1836年、与力の次男として江戸に生まれる。中野より６歳年上で、冒頭書いたように桂小五郎、久坂玄瑞、前原一誠と接触はあったようだが、県令登用には直接関係していない。やはり井上が一枚かんでいるようだし、これには伊藤も絡んでいたようだ。関口は明治になって幕末の戦後処理に尽力し、慶喜を静岡に送って、自らも家族ともども移り住み、牧之原台地の開墾を手掛けて大茶園造成を成し遂げた。しかし、新政府は人材不足だったようで、1871年、中野同様に請われて出仕することになる。そこで高い行政手腕を示して信頼を勝ち取ったようだ。資料には、前原が下野して不穏な動きを見せていた山口県をまとめるには、地方官吏として実績を上げて来た関口しかいないと、伊藤、井上が三顧の礼でもって山口県令就任を要請したとある。関口にしてみれば、飛ぶ鳥を落とす勢いの二人からそのように懇願されると悪い気はしなかっただろうが、同時に「これは大変だ。山口県の状況は混乱しているに違いない」と思ったはずである。1876年２月、彼は正妻・綾と家族を静岡に残して12歳の長女・操のみを連れて山口入りする。綾とは1863年に結婚している。しかし、実は1870年４月年に「関口隆吉の戸籍に入れた」「妻・静子あるいは、しず」を山口へ帯同していた。「新村出の生涯」によれば、静子を地方官であった関口の側で仕える「連れ合い」とし、そのため、実質的に二人の妻をもつことは「当時では珍しくなく、自然に受け入れられていた」と記している。事実、赴任した1876年の４月には、正妻・綾が長男壮吉を生み、同年10月に連れ合い妻・静子が次男・出(いずる)を生んでいる。以後正妻と連れ合い妻とは、ほぼ交互に子供を産んでおり、関口は11名(４男７女)の子沢山である。結果的には関口も中野同様に３度の結婚をしているが、最初の結婚では、24歳の時に稲生寅太郎の娘と結婚、病弱だったこの妻は結婚後１年半で病死し、子供は出来ていない。山口での住まいは道場門前の脇本陣だった安倍家だった。

山口県に赴任した関口は、結果的に萩の乱の鎮圧に成功するのだが、これを彼一人の功績とするには少々無理がある。広島鎮台の兵を率いた三浦梧楼少将の働きがなければ鎮圧は無理だったからである。萩の乱が起こる前、赴任してきた関口に対して旧知の前原一誠は、彼に「旧交を温めたいから是非萩に来て欲しい」と度々手紙を送ったらしい。しかし、関口は前原とは一線を画す方針を取り続けたようだ。有能な官吏らしい読みがあったのだろう。なお、西南戦争勃発とともに萩の乱の残党、町田梅之進らが決起したが、彼らを鎮圧したのは関口の指揮する山口警察隊(隊長は秋良貞臣)だった。一時優勢だった町田軍は、彼が銃弾を受けて自刃してからは総崩れとなった。萩往還、一升谷には「町田梅之進自刃の地」の石碑と看板がある。昨年偶然にも、町田の墓が萩市内の享徳寺にあることを知った。看板には「町田梅之進の遺骸は一旦菊が浜墓地に埋められたものの、その後行方不明になったため、ここに再建した。またこの寺の第 20 代の住職・町田蓬山はその遺児である」とあった。閑話休題。その後関口は元老院議官として東京に戻り、さらに静岡県令となって、冒頭書いたように、鉄道事故に遭うのである。

さて、ここからは、新村出(しんむら いずる)について少し述べておこう。彼は道場門前、安倍橋近くにあった脇本陣・安倍家で上述のように 1876 年 10 月に生まれている。関口が山形権令から山口県令として着任したのが 2 月のことだから、下世話な話で恐縮だが、仕込まれたのは山形においてであった。事実「新村出の生涯」にも「出」という名は「山形で出来て山口で生まれたので」二つの「山」を重ねて「出」と命名したと書かれている。この話ばかりは前々から知っていたが、出の次姉が書いた「思出艸」には安倍家は「元本陣」と誤って書かれており、どっしりとした広い家で、関口が洋間を裏庭に増築したことも書かれている。また離れもあって、天長節の時などは県の上級幹部などが大勢やってきたそうだ。また次姉と出は、外郎屋にも赴いている。山口でその当時外郎屋といえば福田屋のことだろう。「まるで姫君若君でも御成になったようで恥ずかしかった」と述べている。二人は奥座敷の床の間の前に錦の座布団に座らされ、主人が挨拶にまかり出てきて、奇麗な女が高杯に外郎を盛って目の前に置いて下がるというような歓待をされた、とも書いている。出は 1880 年山口県師範学校付属小学校に入学するが、2 年後は父に従って転校し、残念ながら、それ以降は、山口には何ら足跡は残していないようだ。出は父の事故死した 1889 年に慶喜公の家扶・新村猛雄の養子となって、新村姓を名乗ることとなった。

なお、関口の息子たちは皆優秀で、新村家に養子に行った出は言語学者、長男の壮吉は東大卒後、浜松高等工業学校の初代校長、四男の鯉吉は東大卒後、東京天文台長になっている。

5. おわりに

以上述べてきたように、山口県の初代、第 2 代知事(県令)は、他県では見られない旧幕臣出身の二人だった。そして、ともに静岡藩士となっている。6 歳違いだから、静岡県にいた頃には面識くらいはあったかも知れない。ただ、初代中野は途中から実業界に転じて、逮捕されたり、三井の番頭とも揶揄された井上馨の暗い部分とも深く関係したりしている。そして謎の猟銃自殺である。しかも、冤罪だったとは言え、逮捕され、疑獄事件とも無縁ではなかった。数多いる県令、知事のなかで、このような知事というのも珍しいのではないだろうか。

その点では、二代関口の身辺は奇麗だったと言って良いだろう。ただ、現在的道徳観から言えば、転勤に連れて回る妻と、本拠静岡の自宅を守らせる妻とに代わる代わる子供産ませて、かつ一時は二人の妻と同居するに及んでは、下世話な話とはなるが、なんともはや、という感はぬぐえない。明治維新とは言いながら、その辺りは江戸期を少しも抜け出ていないようである。　　(2021.1.4 記)

6. 参考文献

「中野梧一日記」　田村貞雄　校注　1995　マツノ書店
「初代山口県令中野梧一の自殺と前歴」　田村貞雄　1982　山口県地方史研究第 48 号
「初代山口県令中野梧一の人物像について」　嶋尾重乃　2001　まなびのあと第 15 号
「関口隆吉の一生」　三戸岡道夫・堀内永人　2009　静岡新聞社
「わが学問生活の 70 年」新村出　1998　日本図書センター
「『広辞苑』はなぜ生まれたか」　新村恭　2017　世界思想社

完全に頭のおかしい陰謀論者

九州支部　S60年　農学部卒　池田徳子

大学の卒論はヘラヤハズという海藻のフェロモンを有機化学合成し、合成したもので有精子を誘引することができるというものでした。充分に効き目はありました。試薬の原料は石油です。

化学物質の安全性を調べる会社に就職して間もなく上司たちが集まって騒いでおられました。アメリカから船で輸入をする為に日本の化学物質の安全性の基準が100倍や1000倍に引き上げられるということでした。何かがおかしいという目で世の中をテレビや新聞を、そして日本政府を見るようになりました。

環境ホルモンが話題になった時に東京の部長のビートたけしの兄マー兄ちゃんの講演では、「最大の環境ホルモンは、体内に直接入れる薬だ。」と話されていたと記憶しています。
私の両親のビックリする種類の薬、急性には効くと思いますが、何十年にも渡りご飯の後に薬という石油を飲み続け、ずっと治らないどころか徐々に悪化する症状(年のせいで片付けられます)。薬をやめさせたいと話しても兄には通じません。私には実験動物にされている様にしかみえないのは、頭がおかしいからでしょうか？

抗がん剤も医者の100人中99人は自分や家族には使わないと聞きます。子どもの予防接種も今はドンドンと増えており、医者の子どもはしていないので身体も大きく頭も良く育ち自閉症になる数も少ないとも聞きました。本当でしょうか？

世界で使用禁止や規制されているショートニング(植物性油、パーム油)は、日本ではアメリカとの協定の為に消費しなければなりません。パン、お菓子、マーガリン、ラクトアイス、コーヒーフレッシュ、フライドポテトなどベトベトしないスーパーの揚げ物にも使われています。私のショートニングの認識はプラスチックです。血管に悪影響をあたえます。血管は地球2周半の長さがあるので少しの悪影響が体に効果絶大に感じます。

除草剤のラウンドアップに入っているグリホサートは発がん性があります。あれだけ売ってあれだけまけば食べ物に入り水蒸気で吸い込み癌は増えますよね。アメリカで禁止された化学物質の最終処分場が日本という話もあります。使わない為の防草シート等地球に優しい除草方法は今はYoutube等を見れば得られます。

全てのものに優しい世の中を子供や孫に残したい。そして今まで頑張ってきた自分の心や体を大切にして欲しいと思います。
オールドメディアだけでなく、イーロン・マスクのお陰で言論統制がまだされていないX(エックス)も、見て知って考えて選んで欲しいです。
私は先ずは病気になる人が少なくなります様にという思いで4毒抜き(和食)をXで発信しています。
もうすぐ人生が終わるから好きにするだけでは、数少ない若者に負担がかかり老害で大迷惑です。
今まさに時間とお金と心に余裕のある元若者が自分を大切に扱い健康を保ち若い時に出来なかった時間とお金を割いて現若者や世の中の為に小さな一歩を踏み出すべき時ではないでしょうか？

たったひとりでも、たった一石でも、投じると波紋は広がります。

スペイン巡礼の旅（Camino Frances＝フランス人の道）徒歩巡礼記（35 日間で完歩）

S57 年経済卒　長谷雄敏郎

2025 年 3 月末に 43 年勤務した会社を退職、コロナ禍以前から計画していたキリスト教の世界三大聖地のひとつ、サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼に行って来ました。

きっかけは会社の先輩が定年後に一人で行った時の話が興味深く、何度か聞いているうちに自分も体力が続くかどうか挑戦してみたい、中世から続くという巡礼の道を自分の目で見てみたいという動機からです。フランス南部のサンジャン・ピエド・ポーからスペイン北西部ガリシア地方にあるサンティアゴ・デ・コンポステーラまでは全長約 800 ㎞、ザックの軽量化には苦心しましたが、思うようには減らせず約 10 ㎏、結構ハードな行程でした。最初のピレネー越えから始まり、途中何度かの峠越え、延々と続く葡萄畑、小麦畑を見ながらのロード、よくよく考えれば距離的にはワンゲル時代の 80 ㎞耐久徒歩を 10 回歩くのとほぼ同じ、更にこのフランス人の道は全行程での高低差が約 13,900m、富士山を約 4 回上り下りするのと同じくらいということで、完歩した後の達成感、充実感は格別でした。毎朝、夜明け前に出発、昼前着、午後から休養。まさにワンゲルの超長期夏合宿スペイン編。

このフランス人の道全体が世界遺産になっており、途中には牛追い祭りで有名なパンプローナ、ブルゴス大聖堂、ステンドグラスで有名なレオン大聖堂があり、目的地まで約 115 ㎞から出発しても巡礼が認められるということで、急に人が増えて来るサリアの町を通り、残り 4 ㎞にある歓喜の丘で雄叫びを上げ、サンティアゴ・デ・コンポステーラ到着です。

今回はワンゲル同期の市川さん（獣医）、田中さん（経済）と 3 人で一緒に挑戦しました。ほぼ毎日同じアルベルゲ（巡礼者用の安宿）やオステル（ホテルの簡易版）に泊まりながら、毎日の出発時間、歩くペースは各々別行動で 35 日かけて踏破、ゴールのサンティアゴコンポステーラ大聖堂の前で一緒に記念撮影が出来て最高の思い出となりました。

以下私の行程（市川さん、田中さんとは 6/3 午後合流～7/8 までの間と 7/15 マドリードで再合流）を簡単に、とはいえ 35 日間歩き続けたので長くなりますが、、、

6/1　夕方家を出て羽田空港へ移動

6/2　00:20 羽田発 JAL 便✈6:25 ロンドンヒースロー着、バスでガトウィックへ移動
16:25 ロンドンガトウィック発 BA 便✈19:05 フランスボルドー着　**ボルドー泊**

6/3　ボルドー🚄TGV でバイヨンヌ、🚆ｻﾝｼﾞｬﾝ・ﾋﾟｴﾄﾞ・ﾎﾟｰまでは列車で移動
巡礼事務所でクレデンシャル（巡礼手帳）を入手、これでアルベルゲに格安で宿泊可。
オステル Gite Compostella、33€。　**サンジャン・ピエド・ポー泊**

6/4　初日からいきなりの急登、加えてピレネー越え、長時間の歩行は厳しいという判断で途中にある避難小屋（標高 740m）に宿泊、7.4 ㎞。避難小屋とはいえ立派な山小屋で 2 食（赤ワイン）付き。宿泊者は欧米系が多く 60～70 人くらい、夕食時には恒例らしい？各自スピーチもあり、明日から始まる長い道のりへの動機づけとなった。
Refuge Orrison、47€。　**オリソン泊**

6/5　朝食を済ませ 7:30 に出発、19.7 ㎞。途中放牧の牛、馬、羊等々を見ながら登り続け、山上の聖母マリア像にこれからの道中安全を祈願。最高地点 1,450mを越え、強い風寒い中、途中遠目にひげ鷲が数羽岩にじっとしている光景も見ながら無事国境を通過、当初予定のロンセスバージェスに 12:30 に到着。まだ時間も早いので 3 ㎞先にあるブルゲーテ（ヘミングウェイが長期滞在したホテルは予約で満室）まで移動。アルベルゲ Lorentx Aterpea、15€、毎日定番の 2 段ベッド。　　ブルゲーテ泊

6/6　6:15 出発、今日は 18.6 ㎞。8.7 ㎞歩いて Bizkarreta 村に 8:30 頃着、Bar でフランスパンに、生ハム、チーズを挟んだもの＋トルティージャ（スペイン風オムレツ）＋オレンジジュース、定番スペイン朝食。終日牧草地帯を歩く、アップダウンが結構ありきつかったが、スビリには 12:30 到着、Bar でゆっくり昼食。夕方教会で礼拝。アルベルゲ Rio Aruga Ibaia、17€。　　スビリ泊

6/7　5:45 出発、今日は 20.4 ㎞。8.9 ㎞歩いて Zuriain 村に到着、朝ご飯。昼前にパンプローナ到着、午後は大聖堂見学、街歩き、買い物等々。ここで改めて気づいたのはスペインでは毎食事開始が遅く、夜レストランは 19 時半位からしかオープンしない所が大半。朝早めの出発をするには早めの夕食なのだが、それが不可。アルベルゲでは各自工夫して自炊する人も結構いて、欧米人はパスタが多かったと思う。
今回最初で最後のホテル Euro Stars Pamplona、68€。　　パンプローナ泊

6/8　5:15 出発。予定は 24 ㎞。朝は 11℃、肌寒い。寒暖差で結構疲れて来る。途中道を間違え 4～5 ㎞余計に歩く。ペルドン峠越えもあり、結構堪えた。途中 EUNATE 聖堂(サンタマリア聖堂)に寄り道したこともあり今日 33 ㎞くらいは歩いたと思う。ここから足にマメが出来始めたか？プエンテ・ラ・レイナの地名はスペイン語で王妃の橋、11 世紀にナバーラ王妃が橋の建設を命じ作られたと言われている石造りの橋。アルベルゲ Gares、27€。　　プエンテ・ラ・レイナ泊

6/9　5:30 発、今日は 21.3 ㎞。ここからワインで有名なリオハ州に入る。道々に葡萄畑が出てきて、水より安いと言われるワインとの遭遇となる。11:45 今日の宿泊地エステージャ（流れる星に導かれ羊飼いがこの地でマリア像を発見したという伝説がある、エステージャ＝星）に到着。昼は巡礼者セットの MENU 料理、食べきれない。宿泊は公営アルベルゲ。18:30 から宿泊者全員揃って夕食会。ブラジル人夫婦、ドイ

ツ人親子、アメリカ人、イタリア人等々。アジア系は少なく韓国人と台湾人くらい。アルベルゲ de peregrinos de Estella、夕食付で 8€。　　エステージャ泊

6/10 4:30 出発。朝は 12℃、寒い中歩き始める。今日は 21.4 ㎞。街を少し外れた所にゲ代 15€は返金なし、すぐ近くの夕食付きのアルベルゲに乗り換え、ホッとした。工場の人が準備していないのか、チロチロとしかワインが出ない、もう少し遅く来た方が良かった？Villamayor de Monjardin 村で朝食。葡萄畑と麦畑が延々と続く道を歩く。結構きれいなアルベルゲで洗濯も午後の強い陽ざしですぐに乾いて良かった。アルベルゲ Isaac Santiago、8€。　　ロス・アルコス泊

6/11 4:30 出発。今日は 28 ㎞と長い、出発時 16℃、気持ち良い朝。途中村はあったが Bar は開いておらず、18.1 ㎞歩いて 9 時頃やっと Viana 村で朝食。目的地ログローニョには 11:45 に到着。町では 1521 年にフランス軍に囲まれ陥落寸前の町を市民が武器を持ち撃退した記念日で休日、中世の格好をした市民が大パレード、終日お祭り騒ぎ。宿泊は Pencion la Bilbania のアルベルゲ部屋、市内のホテル様式の所に 2 段ベッドを配置、15€は安すぎ？　　ログローニョ泊

6/12 4:30 発。今日は 29.6 ㎞と昨日に続いて長い行程。15℃、霧の中歩き始める。少し町を外れた所では日の出までの間、野ウサギが結構走り回っていた。7:10 Navarrete 村で朝食、9 時頃 Ventosa 教会に。11:15 に赤い山肌で有名なナヘラ到着。今日は Pilgrims la Piedra Loft Apartment に宿泊。　　ナヘラ泊

6/13 朝、昨日スーパーで買ってきた緑色の出前一丁にチョリソと玉ねぎを入れて食べ、5:50 に出発。今日は 20.8 ㎞と短い行程でアップダウンも少ないが小麦畑の道をただひたすら歩く。途中 7:30 頃 Azofra 村で café 休憩。11:10 頃目的地到着。昼食は MENU1 人前を 2 人でシェア、スープ、野菜サラダ、ポークソテー、フランスパン、デザートに巨大プリンと大満足。とにかく一人前が日本人には多すぎる。アルベルゲ Confradia del Santo、11€。　　ｻﾝﾄ･ﾄﾞﾐﾝｺﾞ･ﾃﾞ･ﾗ･ｶﾙｻｰﾀﾞ泊

6/14　朝 15℃と涼しい中 5:55 に出発。歩く距離は 22.2 ㎞と短いがアップダウンあり。歩き始めて 5 日目くらいから足のあちこちにマメが出来始めたが、右足裏のマメが悪化、歩くスピードもそれに伴い遅くなり、今後の心配の種となって来た。目的地には 11:15 に到着したが途中の村にゆっくり休憩できるような Bar はなく、残念。アルベルゲ Cuatro Cantones の 20 人部屋、15€。　　ベロラード泊

6/15　朝 14℃、4:50 に出発。23.8 ㎞と丁度良い距離ではあるが、アップダウンで大変。目的地オルテガは本当に寒村で最初チェックインしたアルベルゲは相当古い設備で、先にチェックインした欧米人がどんどん逃げていくのを見て、我々も退散、アルベルゲ代 15€は返金なし、すぐ近くの夕食付きのアルベルゲに乗り換え、ホッとした。英国、メキシコ、スペイン、オーストラリア人等と同席での夕食は楽しい時間でした。
アルベルゲ、La Cuadra de Luisto、30€。　　サン・ファン・デ・オルテガ泊

6/16　朝 10℃、4:50 長袖 2 枚重ねで出発、風が強く体感は 7～8℃。26.3 ㎞と比較的長い行程ではあったが 11:20 に無事ブルゴスに到着。ブルゴス大聖堂すぐそばにあるアルベルゲが開くまで待つことにする。昼食後、世界遺産ブルゴス大聖堂をゆっくりと見学、まったりと過ごす。ここまでスタートから約 280km、ゴールまではまだ 500 キロ以上ある、完歩できるのか少々不安、まだまだ先は長い。
アルベルゲ、Casa del Cubo de Burgos、10€。　　ブルゴス泊

6/17　今日は 20.5 ㎞、アップダウンも少ないため 6:20 に出発。朝は 15℃、霧もありひんやりした中での出発であったが、9 時過ぎからは晴天 32～33 度、風もなく暑くてたまらない。目的地には 11:00 には到着、昼はレストランテでランチ、久々の御馳走。アルベルゲは 2 食付き、夜はスープ、麺のパエリア、ワイン等々。
アルベルゲ El Alfar de Rosalia、35€。　　オルミージョス・デル・カミーノ泊

6/18　朝 16℃、5:00 朝食、5:40 出発。19.5 ㎞と短いがただひたすら歩いた一日。途中、遺跡 Tau Star、教会、観光案内所を通り昨日と同じ経営者のアルベルゲへ。夜はすぐそばにあるレストランテにてブルゴスで食べ損ねたニンニクスープと MENU 料理。お店の女将さんはうるさ型の人ではあったが味には大満足。
アルベルゲ、El Alfar de Rosalia、15€。　　カストロヘリス泊

6/19　朝 18℃、4:10 出発。昼は 34℃の晴天、風もなく死にそうな暑さの中、途中水門や水路を走る遊覧船を見ながら目的地フロミスタへ。25.7 ㎞歩いたが、平坦だったこともあり、足のマメ悪化は避けられたように思われる。今日のアルベルゲ、公営で設備は古くて最悪。街には活気が全くなく、市の財政がかなり悪化している影響？
アルベルゲ Municipal Fromista、15€　　フロミスタ泊

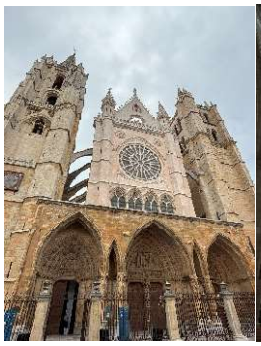
6/20　6:00 出発。今日は小麦畑を横目に 18.8 ㎞、ただただ北西へ、道路に沿っての道。10:10 に目的地カリオン・デ・ロス・コンデスに到着、まずは観光案内所へ。持っていたマメ用のテープが無くなったので、薬局で 3M 社製のテープを購入。フロミスタで帽子も紛失したため、新しいものを購入、これで日除け対策万全。今日のアルベルゲは初めて教会運営の綺麗な所、受付はシスターでメダイを無料で 2 個ゲット。ただ厳格運営のため、翌朝出入口の鍵が開くのが 5:30、翌日は 26.3 ㎞歩くので、早出を予定していたが断念。観光案内所で 2 冊目のクレデンシャル購入。
アルベルゲ Eclesial Espiritu Santo、10€。　　カリオン・デ・ロス・コンデス泊

6/21　５分早く門が開き5:25出発。今日は26.3㎞。朝17℃ではあったが昼には34℃、暑い。出発してから17.2㎞にあるCalzadilla de la Cueza村までただひたすら両側小麦畑の道を進み９時過ぎにようやくCafé で一服。11:50にアルベルゲに到着、村には何もなく、アルベルゲ（3人部屋でシングルベッド３台）で夕食。
アルベルゲMolay、15€。　　テラディージョス・デ・ラ・テンプラリオス泊

6/22　4:50出発、朝は17℃、昼は34℃。今日は23.2㎞。９時を過ぎると暑くて歩くのが辛い。途中でRenfe（スペイン版新幹線）が走るのを見て、少し行くとSahagun駅、巡礼者の中には鉄道やバスを使って途中スキップする人もいるようである。Sahagunの町でミックスサンドとオレンジジュースの朝食、これが思った以上に美味しかった。今日の目的地は今まで以上の田舎、アルベルゲを予約しておらず、数軒断られ村の入口まで戻って、最近出来たと思われる綺麗なアルベルゲに宿泊。
アルベルゲLa Perala、17€。　　ベルシアノス・デル・リアル・カミーノ泊

6/23　今日は26.1㎞。4:45に出発、途中何もない田舎で20.3㎞を４時間５分で歩いてReliegos村でやっと朝ご飯。今日の目的地も超田舎ではあったが、小型のDiaスーパーがありパンや果物を購入。今日は３人部屋のオステルに宿泊。
深夜寝ている間に大雨が降ったようで、浴室の窓から結構雨が降りこんでいた。ただ朝方には何もなかったかのような天気で、歩くのに支障は全くない、合羽を着る機会がなく終わるかも？と期待する。
オステル、Rural El Puente、22€。　マンシージャ・デ・ラス・ムーラス泊

6/24　今日は18.7㎞でレオン。5:50に出発したので、10時頃にはレオン到着。ゆっくりレオン大聖堂見学、張り巡らされたステンドグラスに大感動、スタートから約460㎞、残りも330㎞ほど、何となくではあるが先が見えてきた感あり。
夜は少し待ってレストランテでdinner。夕方から急に土砂降りの雨となり、外での食事は震える寒さで、毎度の寒暖差には閉口。ただ食事は最高に美味しかった。
アルベルゲQuartier Leon Jabalquinto、15€。　　レオン泊



6/25　前日夕方からの雨は深夜も降り続いていたが、朝にはすっかり止んでいて助かった。
今日は25.0㎞、目的地はまたまた田舎、アルベルゲはどこも開いていると思い込ん

でいたが、町で一番大きなアルベルゲの安い部屋は満室と言われ、値段の高い個室３人部屋（鶏小屋の隣）に。宿のおっさんがふっかけてきたと思っていたら高校生の団体が到着、大部屋は瞬く間に満杯。夏休みに高校生が 10 日～2 週間、サンティアゴに向かって歩く課外授業があることが判明、この日以降はアルベルゲを事前予約するようにした。田舎のアルベルゲのため、アルベルゲで夕食、イギリス人女性とドイツ人男性と同席、ワイン談笑出来、楽しいひと時でした。

アルベルゲ Santa Ana に宿泊。　　サン・マルティン・デル・カミーノ泊

6/26　何故か朝はまた寒くなり、10℃で 4:45 に出発。今日は 24.6 ㎞。1 時間半ほど歩いた所に Puente de Orbigo というきれいな街があり、少し無理をしてでも来ていれば、と悔やまれる。情報不足。目的地アストルガの町には大聖堂とガウディが設計した司教館があり、ゆっくり見学。今日のアルベルゲは 1700 年代に建てられたものをリフォーム、夕食は市川さんの手料理特製チキンカレー、美味しかった。

アルベルゲ San Javier Solo Para Peregrions、13€。　　アストルガ泊

6/27　5:30 出発、朝は 12℃くらい、寒い。19.8 ㎞。昼は 27℃くらいまで上がるが、一時の暑さはない。昼歩いてる途中に落ちていた超巨大マツボックリと記念撮影。今日は標高 1,153mの田舎にある公営アルベルゲ、設備は古いが快適。

アルベルゲ、Municipal de Rabanal、10€。　　ラバナル・デル・カミーノ泊

6/28　4:45 出発。今日は 24.6 ㎞。出発時は 17℃で快適あったが Foncebadon を通過、その後 1,500mの峠を越え、一気に標高 580mの Molinaseca まで下る。加えてその日はスペイン中が異常気温とのこと、経験したことの無い様な暑さで、クーラーの無いアルベルゲはほぼ蒸し風呂で寝つきが悪く、みんなへとへと状態。

アルベルゲ de Peregrions Compostella、18€。　　モリナセカ泊

6/29　5:30 出発。暑すぎて３時間ほどしか眠れずではあったが、朝出発時の気温は 18℃。ただ昼には 37℃まで上がり、今日アルベルゲは無理、ということでオステルを予約。冷房付きで快適、３人部屋。22.9 ㎞歩いて昼前には到着。

オステル Villa de Cacabelos、28€。　　カカベーロス泊

6/30　5:00 出発。今日は 25.1 ㎞、出発時は 17℃、風が強く寒い。今日はアップダウンが結構ある行程で疲れた。途中たまに会う高校生の一行と一緒になり、話をする機会があったが、サンティアゴまで 11 日間歩くとのこと、どこから来たのかと聞かれ日本からと言うと、ドラえもん、新之助はスペインでは有名で、寿司大好きとのこと。口を揃えて『日本大好き、行きた～い』、少し元気をもらえたような気がする。

今日のアルベルゲはゴマの葉っぱを畑で栽培しており、韓国人数人が自炊してゴマの葉っぱを食べていた。当初宿泊予定の公営アルベルゲは休館中で、ここが予約なしで泊まれ助かった。アルベルゲ El Paso、13€。　　ベガ・デ・バルカーレス泊

7/1　今日はとうとうガリシア地方に入る日。調整日ということで 11.5 ㎞だけ歩く。朝は

5:50 に出発。18℃、歩きやすい。昼も 28℃まで、ガリシアに入り少し涼しい日が続くようになってきた。最初の Café でフランス人の爺さんとポルトガル人の女性と談笑、なんとこの爺さんはフランス北部からもう２か月以上歩いているとのこと、サンティアゴ到着後もポルトガルまで歩くそう、体力には脱帽。高校生の団体が多くなり、アルベルゲの大部屋は空室なし、21€の２人部屋に。アルベルゲそばのレストランテで Pulpo（ガリシア風タコ料理）やステーキをシェアして食べたが美味。
アルベルゲ Casa Campelo、21€。　　オ・セブレイロ泊

7/2　5:00 出発に予定が大雨のため様子見、霧雨くらいになった 6:30 に出発。
天気予報では晴れの予報であったが、歩いている間はずっと霧雨、結構寒い一日。
21.1 ㎞の行程、700mの登り、900mの下り、ゴールもだんだん見えてきた。
オステル Casa David、21€。　　トリアカステーラ泊

7/3　今日は 18.8 ㎞歩いてサリアへ。朝 15℃で涼しい中 5:00 に出発。ここ数日、牛の糞が歩く道に散乱しておりよけて歩くのに一苦労の連続。9:30 には目的地到着、観光案内所で３冊目のクレデンシャルの買える Bar を教えてもらい購入。
ここから残り 115 ㎞歩けば巡礼証明書がもらえるということで、人がかなり増えてきた。日本の旅行社もここからサンティアゴまで歩くツアーを結構出しているよう。
アルベルゲ Mayor Sarria、14€。　　サリア泊

7/4　今日は 22.3 ㎞。5:00 に出発予定であったが深夜からの雷鳴ありの雨が朝も止まず、であったが 6:00 に出発。アルベルゲの数も増えたが、道中の Bar、Café もかなり多くなり、朝食を気にすることがなくなり一安心。ダムに沈んだ町、ポルトマリンには昼前に到着、昼食にはガリシア風パイ、美味。夜は市川さん特製の親子丼セット。
丘の上にあるアルベルゲ Casa do Marabillas、20€。　　ポルトマリン泊

7/5　今日は 25.2 ㎞。5:45 出発、ずっと曇りで涼しい。途中久しぶりに日本人に出会う。去年退職して、というので 66 歳くらいかと思ったら 76 歳、75 歳まで働いたとのこと、それにしても元気。パラス・デ・レイ到着まで 2 時間くらいバルセロナから来た高校教師と 2 人で話しながら歩き、しばし足のマメの痛さは忘れていた。
オステル CURRO、23€（3 人部屋）　　パラス・デ・レイ泊

7/6　今日は 29.2 ㎞、後半になってからのこの距離は結構辛かった。足のマメには行程中ずっと悩まされたが、治りかけていた所以外にまた出来てしまい、辛い一日となる。

ここ 2～3 日たまに会って話していたアメリカ人とオーストラリア人と昼ビールで盛り上がる。スペイン人の奥さんも後で合流、これが巡礼の醍醐味？と残り数日楽しむことに。モデルハウスのキッチン？みたいな超綺麗アルベルゲ、に宿泊。
アルベルゲ Via Lactea、15€。　　アルスーア泊

7/7　今日は 19.2 ㎞、アルベルゲでゆっくり朝食後の 7:00 発。11:15 到着。
朝 15℃、昼も 23℃と前半戦での暑さは何だったの？というくらい涼しい。
いよいよ明日はゴール。午後はゆっくりまったりの時間を過ごす。
アルベルゲ O-Trisquel、20€。　　オ・ペドロウソ泊

7/8　いよいよ最終日。サンティアゴ・デ・コンポステーラまで 19.3 ㎞。朝 4:45 に出発し、8 時ころ Monte do Gozo（歓喜の丘）到着、丘の上から遠くに見える大聖堂に歓喜の雄叫びをあげる？皆さんそうするそうです。
9:15 に大聖堂前到着。35 日よく諦めずに歩きました。一緒に途中から歩いてきた数人と握手、ハグ。巡礼事務所にて巡礼証明書と完歩証明書をもらい感激。
昼、夜と完歩達成の祝杯を上げました。
オステル Mafer、34€。　　サンティアゴ・デ・コンポステーラ泊

35 日間の巡礼の旅は無事終了、ここまで来たのでついでの旅行をということで、ここで市川さん、田中さんとはマドリードでの再会までしばしの別れ、一人旅へ。

7/9　朝、ポルトガルのポルトへ（大型バス🚌で 3 時間半）。
7/10、7/11、ポルト市内観光。ドロウ渓谷 1 日バスツアー、陽気なブラジル人達と。
7/12　古都コインブラへ（特急列車🚆で 1 時間ほど）。コインブラ市内観光。
7/13　リスボンへ（特急列車🚆で 2 時間ほど）。　　7/14　リスボン市内観光
7/15　リスボン～マドリードへ（ポルトガル航空で 1 時間 20 分）。夕方市川さん、田中さんと再合流して最終総括飲み会。　　7/16　マドリード市内観光
7/17　9:10 マドリード発 IB 便✈10:35 ロンドン着、13:10 ロンドン発 BA 便✈羽田）
7/18　10:40 羽田空港着　※BA の機内食は噂通り余り美味しくなかった、残念😿。

※現地でのオステル、アルベルゲ予約は Booking.com、飛行機、ホテルは Trip.com、Expedia、列車・バス予約は Omio、を利用しました。早めに予約すればお得で格安切符が結構ありました。今後も体力維持増進に日々努めていきたいと思っています。　　以上

6. 近 況 報 告

「東京支部　春の山行」

東京支部　Ｓ５４年　工学部卒　木下嘉郎

４月２６日（土）赤ぼっこ（409m）山行
参加者 11 名；弓削、原、三浦、高津、松永、城戸、小林、秋山、小関、長谷雄、木下（記）

GW 直前の２６日に春の山行を行いました。天気が心配されましたが、当日は何とか登山中は降られることもなく無事に山行を楽しめました。
少し余裕の青梅線宮ノ平駅１０時集合は、まさかの支部長電車乗り間違いで１５分遅れの出発です。短いロードの後に予想以上にしっかりと登りが３０分続きます。青梅のハイキングコースとの案内で油断していましたが十分に山行を味わえるコースでした。赤ぼっこのピークは開けて景色も良く昼食には最適です。その後二ツ塚峠からは支部長判断で単調な下山ルートを変更して最短の林道を下り青梅駅へ向かいます。釜ヶ淵公園経由して予約していただいた居酒屋「みんみん家」に 14：25 到着　ビールで乾杯した直後に雨が激しく降りだし間一髪のタイミングでした。これを見越してルート変更したとのＫ支部長自画自賛に周りは無視気味でしたが結果は正解でした。

同期会だより（別府）

九州支部　武富（伊藤）敏夫　（S45　経済学部）

今年の同期会は、５月21日は鶴見岳のミヤマシマ鑑賞、22日は別府地獄めぐりをメインとして別府で開催することにしました。天気予報によると別府付近を含め大分県は天候が次第に悪くなるとのことで、朝早く起き慌てて計画を変更することにしました。また、別府では昼食場所の予約ができないため、他の参加者の皆さまの集合時間より前に別府駅に到着、観光案内所で観光情報の入手や昼食場所を確認し、２日目の昼食場所と別府地獄めぐりのキャンセルなどをおこないました。

平成28年の駒ヶ根千畳敷以来、久しぶりに中洲さんが参加してくれました。21日はうみたまご（水族館）に行くよう計画の変更をしていましたが、生憎の大雨で出かける気持ちになりません。大分名物のとり天、だご汁の昼食を摂った後、喫茶店で皆さんと近況報告などのおしゃべりをすることになりました。第１日目の「駄弁り」タイムの始まりです。その後、早めに宿泊場所へ移動し、チェクイン後も部屋で「駄弁り」タイムの続きです。年齢を重ねるとこういう「駄弁り」タイムの方が楽ですね。

同期会を最も楽しみにされていた藤原正明さんが、２月に急逝されたため、今年の同期会は「故藤原正明さんを偲ぶ会」として開催することにしていました。午後６時からの懇親会では、写真を飾りお酒を注いだコップを置いた故藤原正明さんの席も特別に設け、懇親会に参加していただきました。最初に野村さんの献杯の挨拶から懇親会が始まり、午後８時30分頃まで歓談です。その後部屋に戻り午後10時頃まで「駄弁り」タイムのおかわりです。今回は、諸事情により参加することが叶わなかった大谷さんと戸村さんに「激励電話」をしましたが、参加者の皆さんは久しぶりに元気な声を聞いて安心していました。今回の「激励電話」の企画は大変良かったのではないかと思っています。

翌日はタクシーで別府ロープウェイ高原駅まで移動です。当日の朝も風が強く、タクシーの運転手さんがロープウェイの運行状況を確認してくれ、大丈夫とのことで安心しました。高原駅から山上駅までは10分間の空中散歩です。昨日の雨の影響が残っているせいか、頂上付近にはガスがかかり視界不良です。山上駅に到着後、鶴見岳頂上へと向かいます。ミヤマキリシマは３分から５分咲きですが、その花を眺めながら15分で頂上へ到着です。皆さん久しぶりの坂道で登りはきつかったのではないでしょうか。

高原駅に戻りバスに乗り別府駅西口で下車後、中洲さんの案内で昼食場所のトキワ別府店の地下に移動します。皆さんは中洲さんお勧めのものなどを注文していました。今年の同期会もこの場所が最後となります。解散の挨拶が終わり、皆さんそれぞれ次の目的地へと向かいました。

同期会も今年で15周年、15回目（令和３年はコロナのため中止）の開催となりますので、「同期会15周年記念アルバム」作成し、ラインに参加されている10名の方にお配りしました。その冒頭の「同期会15周年を迎えて」をここに掲載することといたします。

「同期会15周年を迎えて」

第一回目の同期会は山口駅前駐車場が集合場所でした。卒業以来、初めて再会する方も居ましたが、たちまち学生時代の顔に戻り、再会を喜び合ったことが昨日のように思い出されます。

年を重ねるにつれて、いろいろな出来事が矢のように飛んでいき、過ぎゆく時の速さに驚くばかりです。後期高齢者となった今、「行く末の事」を本気で考えるようになり、いつの間にか人生の下り坂に差し掛かりました。皆さんの住んでいる場所は違いますが、ワンゲル時代の気持ちが通い合っているのが、何よりも心強いものです。今後も終生の友として睦み合っていけたら良いと感じています。

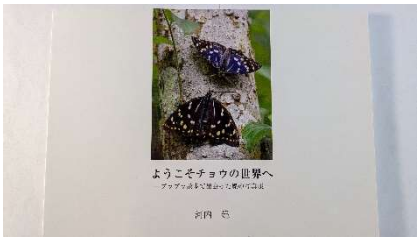
令和２年の同期会の後に、亡くなられた同期の友を偲んでみることにしたらどうかとの提案があり、令

和２年12月に「同期会の回顧（友を偲んで）」を、また、令和３年２月に「思い出のアルバム」を作成し、皆さまにお配りしたところです。この「同期会 15 周年記念アルバム」は「同期会の回顧」の追録と考えても良いでしょう。

同期会も第 1 回目の山口開催では参加者が 17 名でしたが、今では参加者も固定化し 10 名前後となりました。一時期中止しようという話も出ましたが、故藤原さんが、集まれる人だけでもこの同期会を続けていきたいと熱望され、今年（令和７年）も開催することになりました。

平成２２年から開催した同期会は、コロナ禍で令和３年に１回中止しましたが、今年で１５回目となり１５周年を迎えます。15 周年記念として、手元にある写真をもとに「同期会 15 周年記念アルバム」を作成することにしました。これらの記録や写真を眺めながら、愉快に笑い、大きい声で歌い、感動したことなどを思い出してみてはどうでしょうか。それにしても年をとりました。

平穏とは決して長く続くものではないと言われますが、同期会を誰よりも楽しみにされていた藤原さんが２月に急逝されました。改めて皆さまと共にご冥福をお祈りしたいと思います。



昨年の同期会だよりで、河内さんが新たに写真集の出版を計画していると報告していますが、その写真集（ようこそチョウの世界へ　発行　令和６年９月）を、参加された皆さんに配布してくれました。大変美しい多くの蝶の写真が掲載されており、皆さんはその写真集を読んで感激していました。今回で３冊目ですが河内さんありがとうございました。

毎年開催してきた同期会もそろそろ終わりの時期を迎えたようです。開催場所が最初は山口でしたので、最後も山口でとの申し合わせにより、来年は山口で開催する予定です。皆さん元気な姿でお会いしたいものです。

令和７年５月25日

7．OB の皆さまへのお知らせとお願い

（1）令和７年会誌（OB 通信）の取扱いについて （お知らせ）

今年度はOB 通信の印刷費や郵送費は物価高の影響を受け高額となってきているため、印刷費や郵送費の削減を行い、OB 会の予算を確保していくことに致しました。

（令和６年度東京支部総会および支部長会議（WEB 会議；6 月 17 日開催）にて OB 会の経費削減に係る対応策が承認されました。）

具体的には今年から経費の節減を考慮して、OB 通信の夏号はHP のみの掲載とし、冬号は通常どおり冊子とHP 掲載をすることになりました。今後も従来と同様の活動を維持するため、ホームページやメールの活用により、コスト削減の検討をしていきたいと思っていますのでご理解のほどよろしくお願い致します。

【会誌（夏号）】

① 総会のご案内

従来通り、総会の案内文、返信用はがきは従来通り送付

② 会費未納のＯＢの方への案内文、振込票

会費有効年は宛名に記載、期限切れの OB に案内文を送付

【会誌（冬号）】

従来通り、OB 通信他の印刷物を１２月中旬頃送付予定です。

① ＯＢ通信

② 会費未納のＯＢの方への案内、振込票

③ 会員名簿

※ ホームページのご案内

鳳翩会（山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会）のホームページのアドレスは

https://houben-kai.sakura.ne.jp/ です。

「鳳翩会」で検索しても到達できます。是非ご利用ください。

（PDF のダウンロードも可能です。）

記載内容；過去の OB 通信のすべて

過去の部誌のすべて

会員からの近況報告

（2）OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意願います。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先】

次頁・会長宛お問い合わせ下さい。

会費有効年に応じて、鳳翩会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア　新規加入の皆さま及びOB会費未納のため2024年までに会員資格を喪失された皆さま

鳳翩会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票

新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長宛てメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号７５３－０８４１　　住所　　山口県山口市吉田１６７７－１山口大学体育会内

宛先　　山口大学ワンダーフォーゲル部

イ　会費有効年が2025年の皆さま

会費納入について(お願い)、郵便局払込取扱票

口座記号番号　01530-0-16050

加入者　　山口大学ワンダーフォーゲル部鳳翩会

個人会員年会費　2,000円（夫婦会員年会費　3,000円）

※年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振込金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を 1,000 円の端数で納入されないようお願いします。

新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱い致します。

（2）OB通信の送付について

OB通信は本来会員の皆さまだけに送付することになっています。

（3）OB通信・鳳翩会HPへの寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受付けしています。掲載を希望される場合は、会長宛原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いします。鳳翩会HPは随時受付ます。なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長までお寄せ下さい。

（4）転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長までご連絡願います。

同期世話人の方には同期の方の住所変更の連絡をお願いしています。同期世話人の一部の方でメールが不通となっています。メールアドレスの変更がありましたら同様に会長までご連絡ください。

8．２０２５年　本部・支部役連絡先

【本部】

・鳳翩会会長

田村　伊正（ 工・昭和５３年卒 ）
〒758-00525 山口県萩市土原63-3
携帯　090-3177-3876 （家電 0838-25-5775）
E-mail　tamurako@kyouwagrp.jp

・鳳翩会副会長

三國　彰　（ 工・昭和55年卒 ）
田原　宏　（ 工・昭和57年卒 ）

・鳳翩会幹事

田中　秀平 （ 農・昭和４７年卒 ）　石川　忠　（ 教・昭和49年卒 ）
古谷　眞之助(経・昭和５２年卒 ）　坂田　信一 （ 理・昭和57年卒 ）
浅野　哲郎 （ 工・昭和61年卒 ）　齊藤　昌彦 （ 農・昭和60年卒)兼会計担当

・鳳翩会事務局長

緒方　若菜 （ 人文学部・４回生／7月現在)
連絡先〒753-0841 山口県山口市吉田１６７７－１山口大学体育会内ワンダーフォーゲル部

・鳳翩会会計監査

平野　展康（ 経済・昭和59年卒 ）　日野　耕二(経済・昭和５８年卒 ）

【東京支部】

支部長　小林　照明 （ 工・昭和５１年卒 ）
事務局長　小関　哲哉 （ 工・昭和５５年卒 ）

【関西支部】

支部長　池田　純　（ 工・昭和５１年卒 ）

【山口支部】

支部長　坂田　信一 （ 理・昭和57年卒 ）
支部幹事　平野　展康 （ 経・昭和５９年卒 ）
支部幹事　川地　翔子 （ 農・平成２６年卒 ）

【九州支部】

名誉支部長　永沼　嗣朗 （ 経・昭和３９年卒 ）
支部長　堀　剛　（ 経・昭和57年卒 ）
事務局長　天野　雅紀 （ 経・昭和６１年卒 ）

【編集後記】

今年の夏号から、HP のみの編集となりましたが、例年よりは原稿の投稿が少なかったようです。
冬号は皆さまからの投稿を期待していますのでよろしくお願いいたします。　編集長　田原　宏

鳳翩会
山口大学ワンダーフォーゲル部OB会